

まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版ver.1.1）

---

## 活用の手引き

## ■ 目次

<b>1章 はじめに</b>	<b>P2</b>
1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかとは	P3
2. 「まちなかの居心地の良さを測る指標」の作成目的	P5
<b>2章 本指標の解説</b>	<b>P7</b>
1. 基本的な考え方	P8
2. 居心地の良さを構成する4要素	P10
【コラム】居心地の良さを構成する4要素の抽出	P12
3. 本指標の構成	P13
4. 本指標の活用方法	P15
<b>3章 調査要領</b>	<b>P17</b>
1. 本指標の実施ステップ	P18
2. 事前準備について	P19
3. 現地計測方法の解説	P24
4. 分析ツールの利用方法の解説	P33
5. 結果の分析に関する考え方	P42
<b>参考資料</b>	<b>P50</b>
1. 計測イメージ	P51
2. まちの状態の可視化に関連した文献・ツール等	P58

# 1章 はじめに

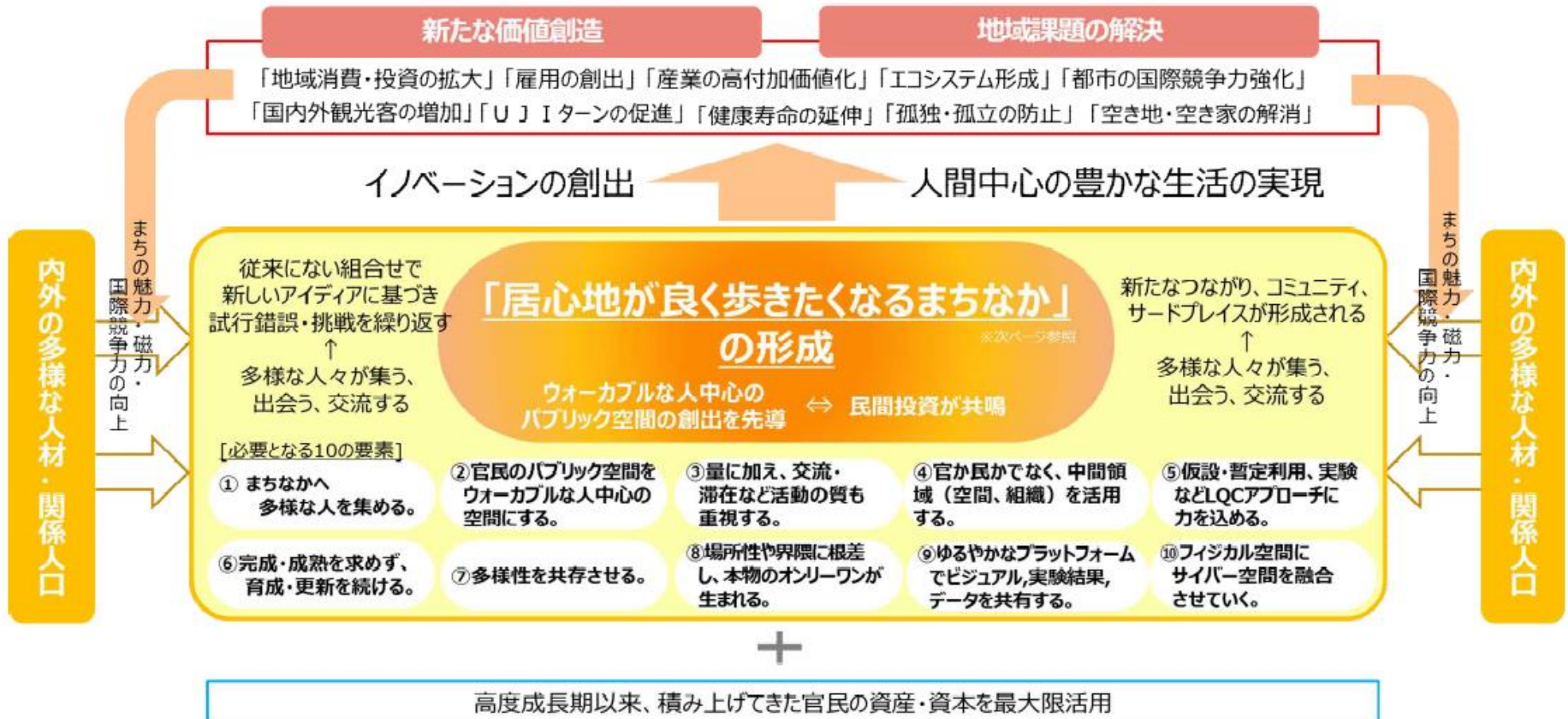
---

## (1) 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成の背景

誰もが容易にアクセスできる街路・公園・民間空地等の官民のパブリックな空間を、単一目的・単一用途の使い方の空間から、居心地が良く多様な人々の多様な使い方が共存できる「居心地が良く歩きたくなる」人間中心の空間とすることで、周辺地域への高い波及効果が期待されます。

そのような人間中心の空間における多くの人材の出会いと交流により、地域の消費と投資、雇用を生み出し、豊かで成熟した生活を実現する「都市空間」へと再生していくことが狙いです。

人が集い、滞在し、周辺への波及効果も高い公共空間は、まちなか再生に向けた触媒、先導役となる可能性を持っています。



## (2) 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの構成要素

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりには、歩きやすい空間づくりのみならず、まちの1階部分において人々の興味を引く、楽しい環境とすること、人々が思い思いの多様な活動ができる空間の形成、誰にも開かれ、滞在したくなるような空間づくりが必要です。

以下に記載した、「Walkable」、「Eye level」、「Diversity」、「Open」が、ウォーカブル空間形成のための重要なポイントとなります。

### 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかのイメージ

#### Walkable 歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたいくなる、歩きたくなる。

#### Eye level まちに開かれた1階

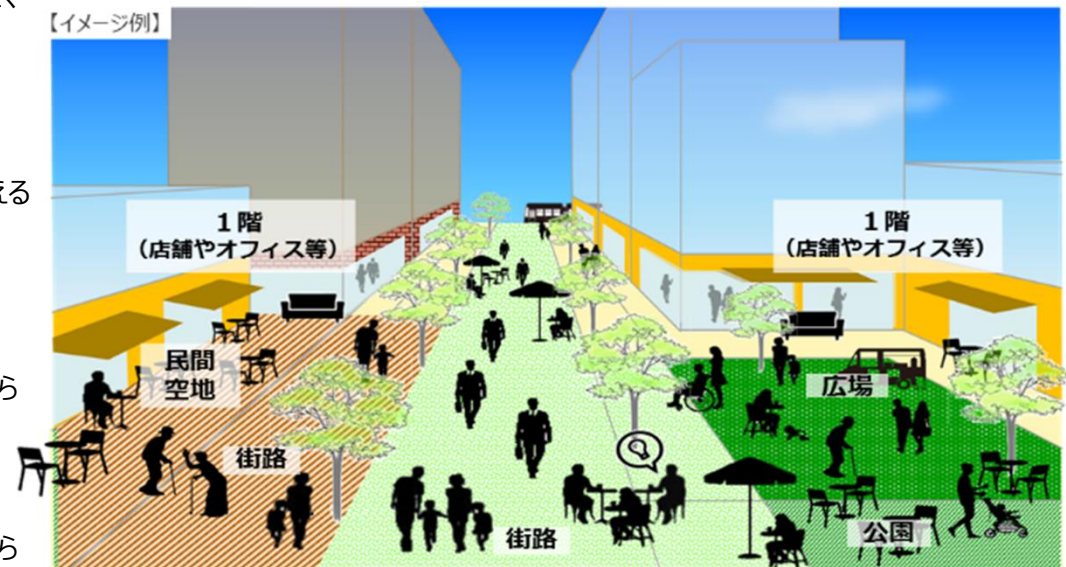
歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

#### Diversity 多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

#### Open 開かれた空間が心地良い

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。



### (1) 指標作成に至った背景

少子高齢化、デジタル化、グローバル化、ニューノーマルな生活様式の浸透等、急速な社会変容を踏まえた都市のあり方を検討するため、国土交通省では下記の懇談会・検討会を開催し、その中で、今後のまちづくりの構成要素としてアクティビティに着目することの重要性やQoL向上の度合いを可視化することの重要性が議論されました。

#### ■ 本指標作成のきっかけとなった主な会議体

##### 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会（平成31年2月～令和元年6月）

##### ● 懇談会の概要

女性の活躍やスタートアップの拡大など都市経済・社会の「多様性」の促進や、これら多様性の集積・交流を通じた「イノベーション」の創出など、付加価値を創出する「都市」のあり方について検討することを目的に開催しました。

##### ● 検討された内容

中間とりまとめ報告書の中の、今後のまちづくりの方向性と「10の構成要素」という項目では、「量に加え、交流・滞在などの活動の質も重視する」との記載があり、今後のまちづくりの構成要素としてアクティビティに着目することの重要性が議論されました。他にも、多様性の共存やプラットフォーム等が構成要素として掲げられ、それらが居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成に繋がっているとされています。

参考：都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会中間とりまとめ報告書（概要）  
<https://www.mlit.go.jp/common/001301649.pdf>

##### デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会（令和2年10月～令和3年4月）

##### ● 懇談会の概要

最近の都市政策の動向等を踏まえ、社会的変化に対応しつつ、都市アセットの利活用を通じた市民のQoL（Quality of Life）の大幅な向上を図るため、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか、これを実現するための都市政策をどのように変革していくべきかについて検討することを目的に上記検討会を開催しました。

##### ● 検討された内容

中間とりまとめ報告書の中のまちづくりを評価する指標のあり方では、「実際のまちづくりが市民のニーズに真に込んでいるかを検証するためには～都市アセットを利活用して行われている活動の内容や都市の利便性に着目し、市民のQ o L 向上の度合いを可視化する評価指標を設定することが重要である。」との記載があり、ニューノーマルな時代にむけたまちづくりの評価指標としてQoL向上の度合いを可視化することの重要性が議論されました。

参考：デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会中間とりまとめ報告書<https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/content/001398793.pdf>

また、巻末参考資料にも付記した通り、国内外の研究・実践からも、滞在者のアクティビティに着目し都市を評価したり、空間づくりを行う手法が確立しています。

特に、泉山墨威らの「人間中心視点による公共空間のアクティビティ評価手法に関する研究」は、滞在者の行動観察から、「歩行者交通量が増えても利用者は必ずしも増えるわけではない」ことを立証し、会話・休憩・飲食といった活動（アクティビティ）が滞在者の滞在時間を延ばし、単位時間当たりの滞在者数を増やすことを明らかにしています。また、交通量調査、滞在者アンケート調査という従来型の調査手法に加え、滞在者の活動の観察を行う「アクティビティ評価」を行うことで、質的かつ客観的なデータ収集を可能とし、より精緻な都市の評価を実施できると述べています。

また、LIFULL HOME'S総研の「Sensuous City [官能都市]」では、「都市における官能的な体験の実態をつかむ」ことを目的に関係性と身体性という視点から都市の実相を可視化する調査を行っている等、まちなかで行う「活動」が着目されています。

## (2) 作成目的

- これまで、都市空間の状態を把握する際、「**滞在者・通行者の量**」や、インフラ施設の整備状況や構造物/工作物の設置状況といった「**ハード環境**」より、その状態を定量的に把握する手法が一般的でした。
- 日本の都市が成熟期に入り、「新たに作る」だけでなく「場を活用」するまちづくりが重要視され、都市は市民生活の最低限の機能を満たすものから、市民一人ひとりが輝ける舞台として、市民のQoL向上を下支えするものとなっていく必要があります。
- そのため、施設の整備状況や交通量、滞在者・通行者数といった「量」の把握に加え、都市がどのように利用され、どのような活動が行われているかといった「質」に着目することが重要です。本指標（改訂版ver.1.1）（以下「本指標」という）は「**都市空間の質を可視化する指標**」として、令和元年度に公表した指標をベースに、実際に活用した方々の声を参考にしながら作成しました。
- 本指標では「都市空間の質」について、「**居心地が良く歩きたくなるまちなか**」を目指し、空間の状態に加え、滞在者がどのように感じ（主観）、どのように利用しているか（活動）を把握することで、これまで捉えることが難しかった「まちなかの居心地の良さ」を可視化しています。
- まちなかの居心地の良さには様々な要素があり、人・場所・時間等によって求められる要素は変わるものです。本指標は、全てのエリアに共通する指標として作成したものではありません。エリアのビジョンや戦略に応じて、「**まちづくりの実践者自らが指標となる項目を選択・追加しながらエリア独自の指標を設定**」し、まちなかの居心地の良さを体現する空間や人々の状態を定期的・定点的に調査、可視化することを目的としています。どのように空間を育てていくのか、どのように空間を使えたらいいかなど関係者間で意見交換を行う際に、「**本指標が議論の素材として活用され、気づきのきっかけになることを期待**」しています。



出所：「姫路市ウォーカブル推進計画」



出所：「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」



出所：「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」

- 本指標をKPIとして高頻度でPDCAを回すことで、「**本質的に居心地が良く、使われるまちなかになる**」ことが期待されます。また、本指標により、まちづくりの取組から得られた効果をこれまでよりもわかりやすく多角的に可視化することで、ステークホルダーとの「**コミュニケーションが充実**」、活動意義と継続の必要性の共感の輪を広げることができます。

**本指標を用いて「まちなかの居心地の良さ」を様々な観点から計測し、皆さんの空間を見直してみませんか？**

ぜひ多くのエリアで活用いただき、皆様の感想の声をもとに、よりよい指標に育てていきたいと考えています。

## 2章 本指標の解説

---



## (1) 人間の視点により場の状態を把握することの必要性

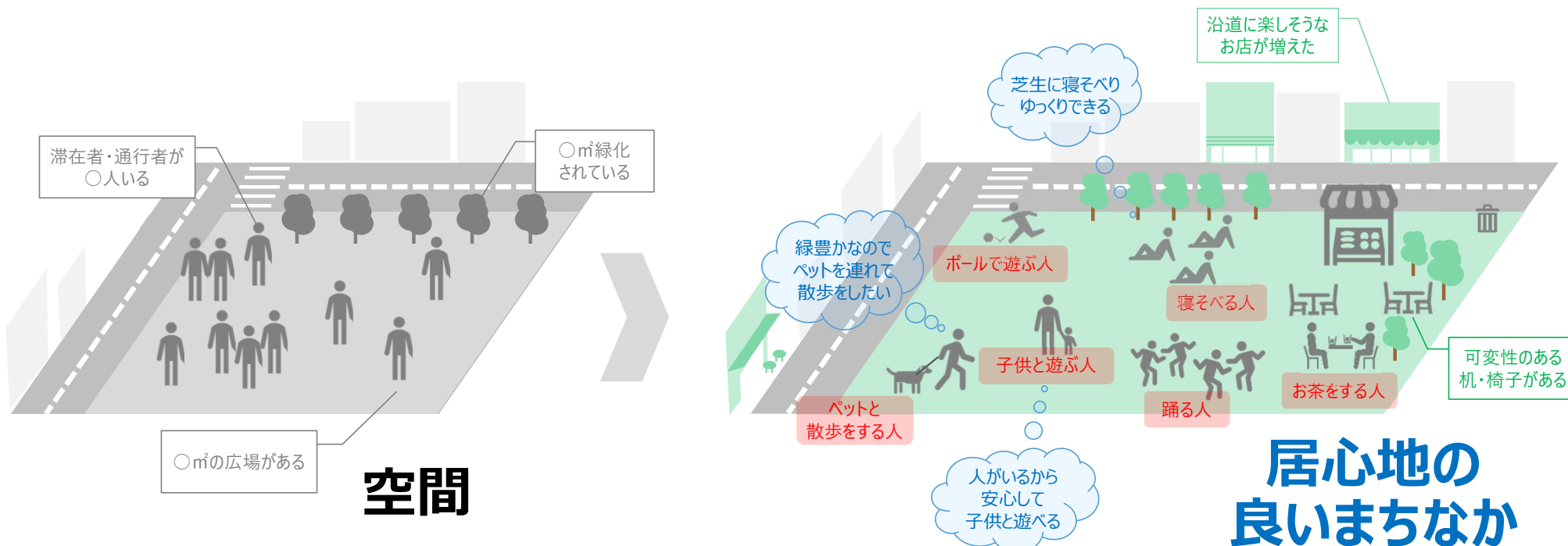
社会資本整備が一定程度完了したまちなかにおいて「つくること」から「つかうこと」に着眼し、量から質への転換が求められています。

そのためにはより人間らしい視点から場づくりを行うことで、単なる空間（スペース）から滞在者・通行者にとって居心地の良いまちなか（プレイス）へ場を育てるという発想が大切です。

そのため、まちなかの居心地の良さを把握する際には、滞在者・通行者がどのような気持ちで、どのように場を利用しているか、人間の視点に立って場の状態を把握することが重要です。

### ■ 対象地

本指標は「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を支援するものとして、多様な人々の出会い・交流拠点である各都市のまちなかで活用されることを想定し作成していますが、対象地の制約はございません。



空間の状態、滞在者・通行等の表面的なことを把握

滞在者・通行者がどのような気持ちで、どのように場を利用しているかなど、人間の視点に立って場の状態を把握

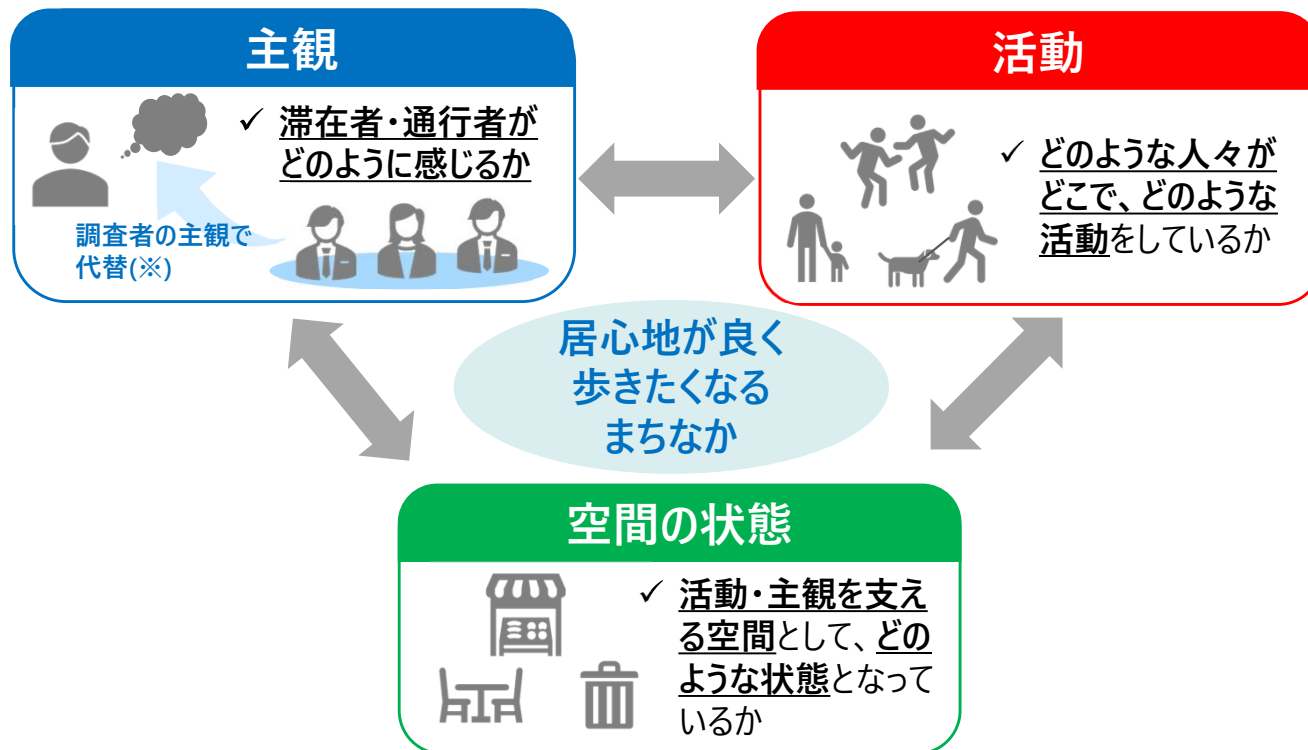
## (2) 主観と活動、空間の状態の関係性

これまで多くのまちなかの調査では、ハードが整備されているか（ハード整備状況）、どのくらいの人がいるか（滞在者・通行者数）により、まちなかの状態を把握していましたが、建物や土地、設え等の空間の状態に加え、滞在者・通行者がどのように感じ（主観）、どのように場を利用しているか（活動）を確認することで、居心地の良い空間が形成されているかどうかを、より人間らしい視点から把握します。

本指標はプレイスメイキング\*の基本的な考え方を参考に、かつ滞在者・通行者にとっての居心地の良さや場の使いやすさを鑑み、「主観・活動・空間の状態」からまちなかの状態を把握することとしました。

\*：プレイスメイキングとは、まちなかに居心地の良い「居場所」となる場所を増やすことで、そのまちに暮らす人々生活の質を高める手法

### ■ 人間視点のまちなかの状態把握項目



### ■ これまでのまちなかの状態把握項目



### ※滞在者・通行者の主観を代替することについて

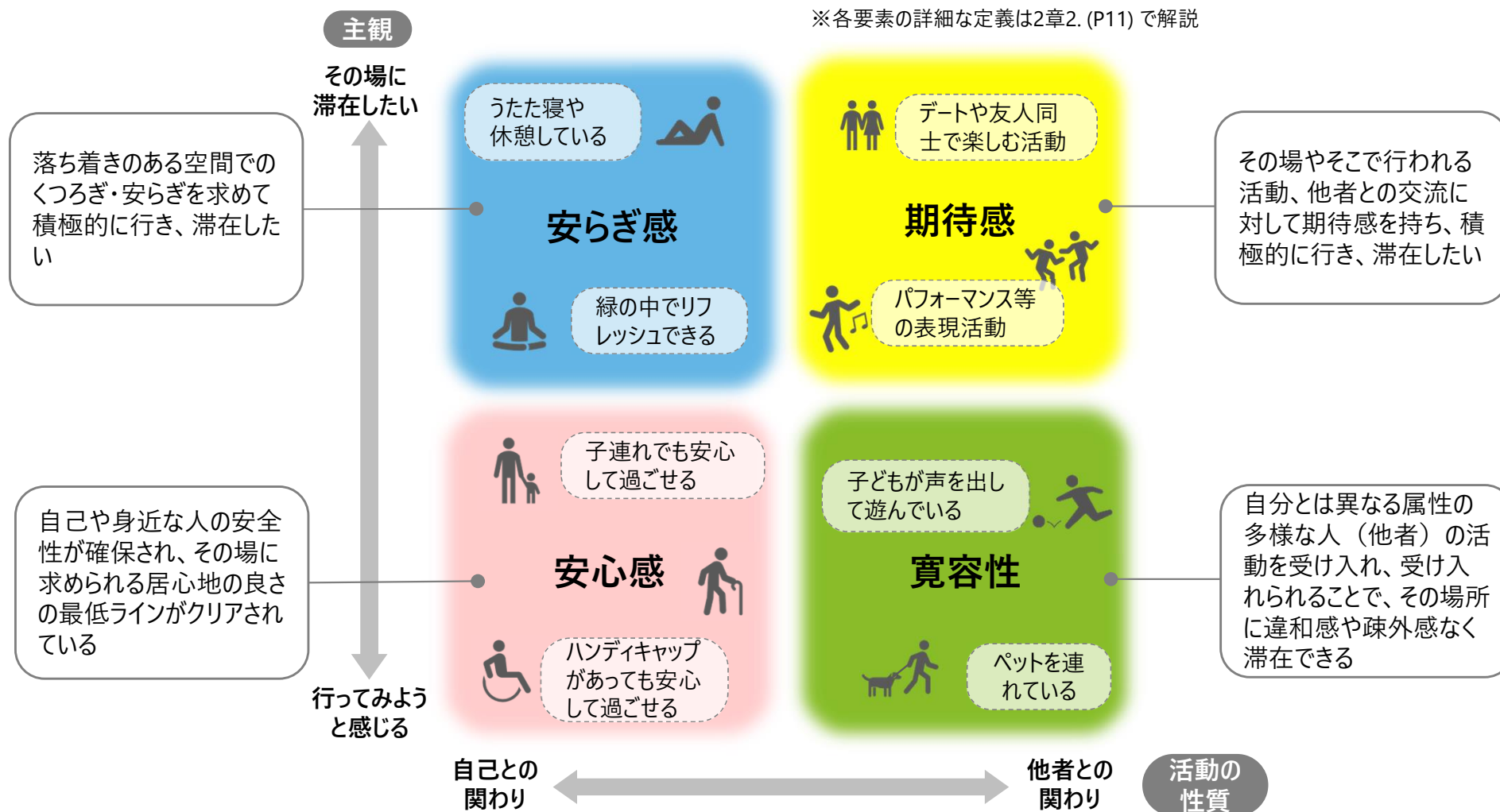
- 本指標では測定を簡便にするため、「調査者」の主観を計測しています。
- 「調査者」の主観が、滞在者・通行者の一般的な主観として代替できるよう、「調査者」は属性に偏りが無い数人（調査結果を入力する分析ツールには6人分の結果を入力できます）で計測することを想定しています。
- より滞在者・通行者の実態を把握したい場合は、アンケートを実施することも考えられます。

## (1) 居心地の良さの4要素の位置付け

居心地の良い空間に求められる要素は、その場に滞在する人の感情やその場で行われる活動の性質により、様々なものがあります。本指標では、本指標の利用者のわかりやすさも踏まえ、人が場に対して持つ感情をもとに、居心地の良さを**安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の4つにグルーピング**し、対象地を各要素ごとに把握します。

### ■ 居心地の良さの4要素

※各要素の詳細な定義は2章2. (P11) で解説



### (2) 居心地の良さの4要素の定義

2章2. (P10) の通り、本指標は、居心地の良さを安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の4つにグルーピングし、構成します。各要素を下記のように定義します。

#### ■ 居心地の良さの4要素の定義

居心地の良さの要素	定義
期待感	<p>【<b>ここで行われる非日常的な活動への期待・喜びを創出する状態や要因・結果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 期待感にチェックがつくと、<u>その場やここで行われる活動、他者との交流に対して期待感を持ち、積極的にいきたいと感じ</u>、それを目的にわざわざ出向く可能性が高い</li><li>✓ 非日常が味わえる、人を誘っていきたい、他人にも教えたい</li></ul> <p>⇒少し離れたところからアクセスしてでも、そこで楽しめる時間を過ごしたいと思われる</p>
安らぎ感	<p>【<b>その場所に安らぎを感じ、その場所に留まろうとする状態や要因・結果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 安らぎ感にチェックがつくと、<u>ゆっくりとくつろげることで滞在時間が増加しやすい</u></li><li>✓ リフレッシュしにわざわざ行く人もいれば、ちょっと休憩したいときにふらっと訪れるような人もいる（快適に過ごすためにこの場所を選び活動する／<u>一人でも楽しめる</u>）</li></ul> <p>⇒ちょっとした休憩やリフレッシュのために訪れ、落ち着いてゆっくり過ごしたいと思われる</p>
寛容性	<p>【<b>違和感や疎外感がなく滞在・活動ができる状態や要因・結果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 寛容性にチェックがつくと、<u>滞在・訪問の間口を広げ、多様な人々が集まりやすい</u>（子ども～お年寄り、オフィスワーカー、外国人など様々な人を受け入れる）</li></ul> <p>⇒滞在・訪問の間口を拡張し、多様な属性の人々が滞在・活動しやすいと感じることができる</p>
安心感	<p>【<b>不快感を感じず安全に滞在・活動ができる状態や要因・結果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 安心感にチェックがつくと、<u>居心地の良さの最低レベル</u>を満たせる</li><li>✓ 本要素に分類される項目にチェックがつかないと、人を遠ざける要因となる</li></ul> <p>⇒ここが満たされないとそこに行こうと思わなくなる</p>

以下に示しているように、居心地の良さに関連する要素は多くあります。まちづくりの実践者を対象としたアンケート結果および文献等を参考に、居心地の良さを「安心感」「寛容性」「安らぎ感」「期待感」の4要素にグルーピングしました。



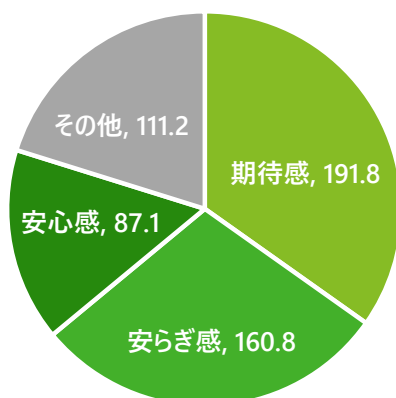
## ■ まちづくり実践者アンケート結果

まちづくり実践者に「居心地が良い」「歩きたくなる」と感じられるシーンにおける感情についてアンケート調査を行い分析しました。その結果、「期待感」「安らぎ感」「安心感」に関する回答が多く見られたことから採用しました。

### ポイント集計方法

- 1回答1ポイントとし、感情を分類しました
- 2つ以上の要素を含む回答は内容に応じ、得点が1になるよう点数を配分しています  
(例: 「安心して過ごせる安らぎ感」→安心感: 0.5、安らぎ感: 0.5)

「居心地が良い」+「歩きたくなる」の合計ポイント



- 期待感  
(期待感・ワクワク感・楽しい・ドキドキ感・驚き・特別感)
- 安らぎ感  
(安らぎ感・落ち着き感・リラックス感・温かい気持ち・癒し感・和む)
- 安心感  
(安心感・安堵感)
- その他  
(快適感・爽快感・寛容性・高揚感・親近感・充実感・幸福感等)

## ■ 寛容性に関する文献調査

近年、急速なデジタル化・グローバル化の進展や、LGBTをはじめとした多様な価値観が共存する社会づくりが求められる中で、都市においても、多様な人々を受け入れる、「寛容性」のあるまちづくりが重視されています。

リチャード・フロリダ氏は著書の中で、持続可能な経済発展において、技術・才能と並び寛容性が重要であると述べています。また、「地方創生のファクターX寛容と幸福の地方論 (LIFULL HOME'S総研)」では、寛容性は地元に住む人の離脱意向を抑え、地域の経済活性化に寄与する多様性を育む要素と述べられるなど、書籍・論文等で、都市における寛容性の重要性が注目されています。

こうした、社会的潮流や文献からわかるように、多様な人を受け入れることはまちに重要な要素であると考え「寛容性」を採用しました。



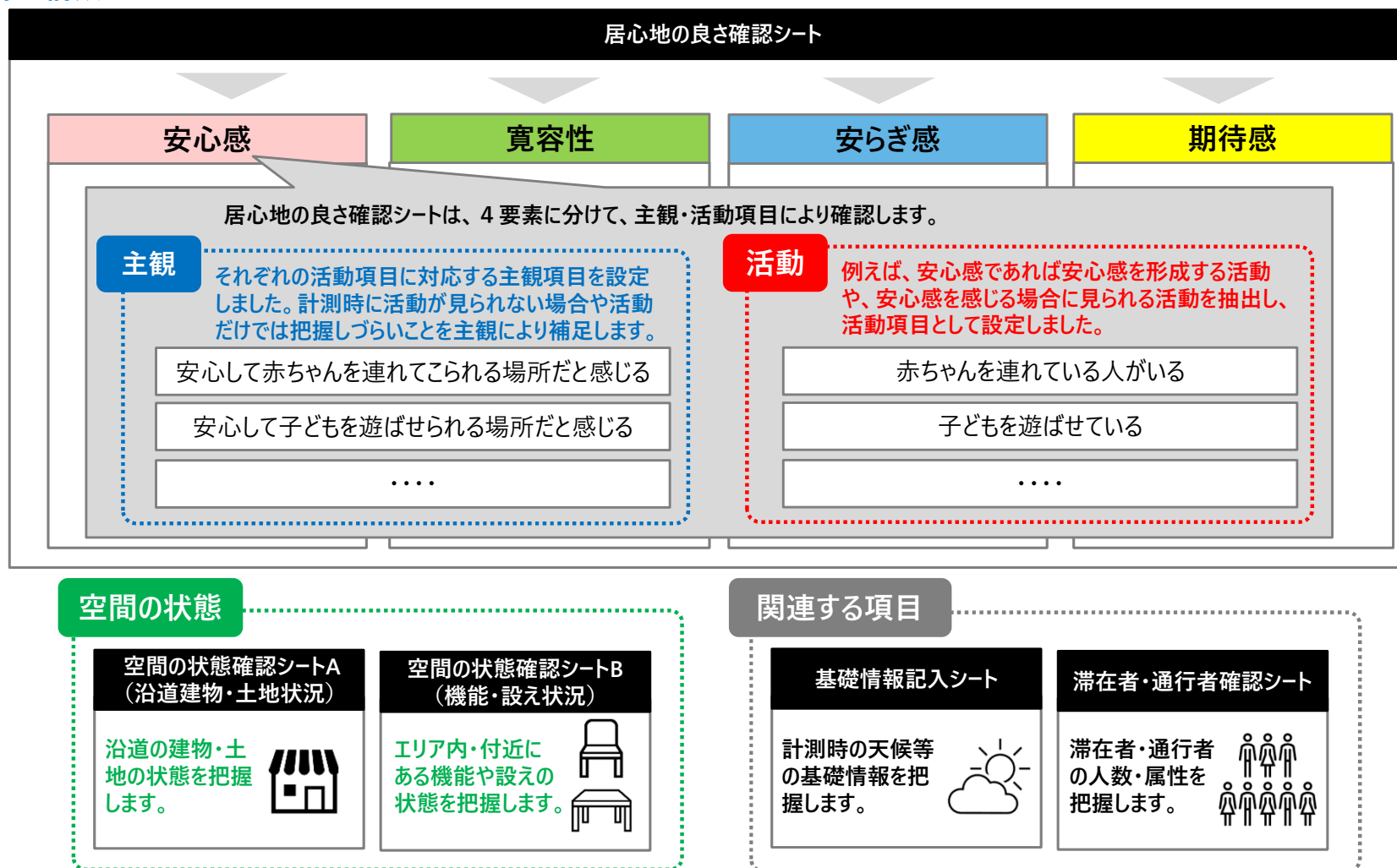
出所: The Rise of the Creative Class, Revisited (10th Anniversary Edition), (Basic Books, 2012).  
井口典夫訳『新クリエイティブ資本論——才能が経済と都市の主役となる』  
(ダイヤモンド社, 2014年)

## (1) 本指標の構成

本指標は、主観・活動・空間の状態とそれらに関連する項目で構成します。

「主観」「活動」は「居心地の良さ確認シート」、「空間の状態」は「空間の状態確認シートA・B」、「関連する項目」は「基礎情報記入シート」および「滞在者・通行者確認シート」で把握します。

### ■ 本指標の構成



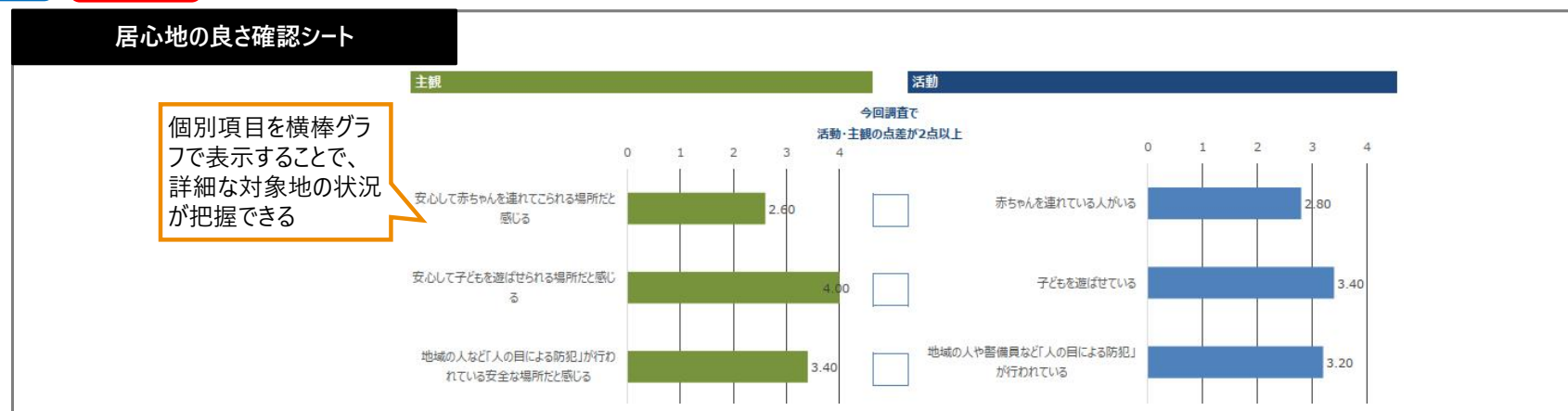
## (2) アウトプットイメージ

本指標を用いて測定した結果は以下のように表示されます。チャートやグラフで簡便に可視化させることで、対象地における居心地の良さの各要素の現状を確認することができます。詳しくは「3章5. (P37～P41)」で解説しています。

### ■ 本指標の構成

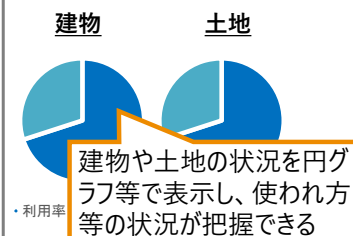
主観

活動



### 空間の状態

**空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)**



**空間の状態確認シートB (機能・設え状況)**

項目	結果
トイレが設けられている	<input checked="" type="checkbox"/>
座れる場所がある	<input type="checkbox"/>
Wi-Fiが利用できる	<input type="checkbox"/>

機能や設えをチェックすることで、計測時の空間の状態を記録に残すことができる

### 関連する項目

**基礎情報記入シート**

調査日時: 2022年11月16日  
 水曜日 祝日  
 12:00 ~ 15:00

天候: (開始時) 18℃ ~ (終了時) 19℃  
 気温: (開始時) 0℃ ~ (終了時) 300℃

対象地情報だけでなく、計測時の天候等を表示することで、計測時の特記事項が把握できる

**滞在者・通行者確認シート**

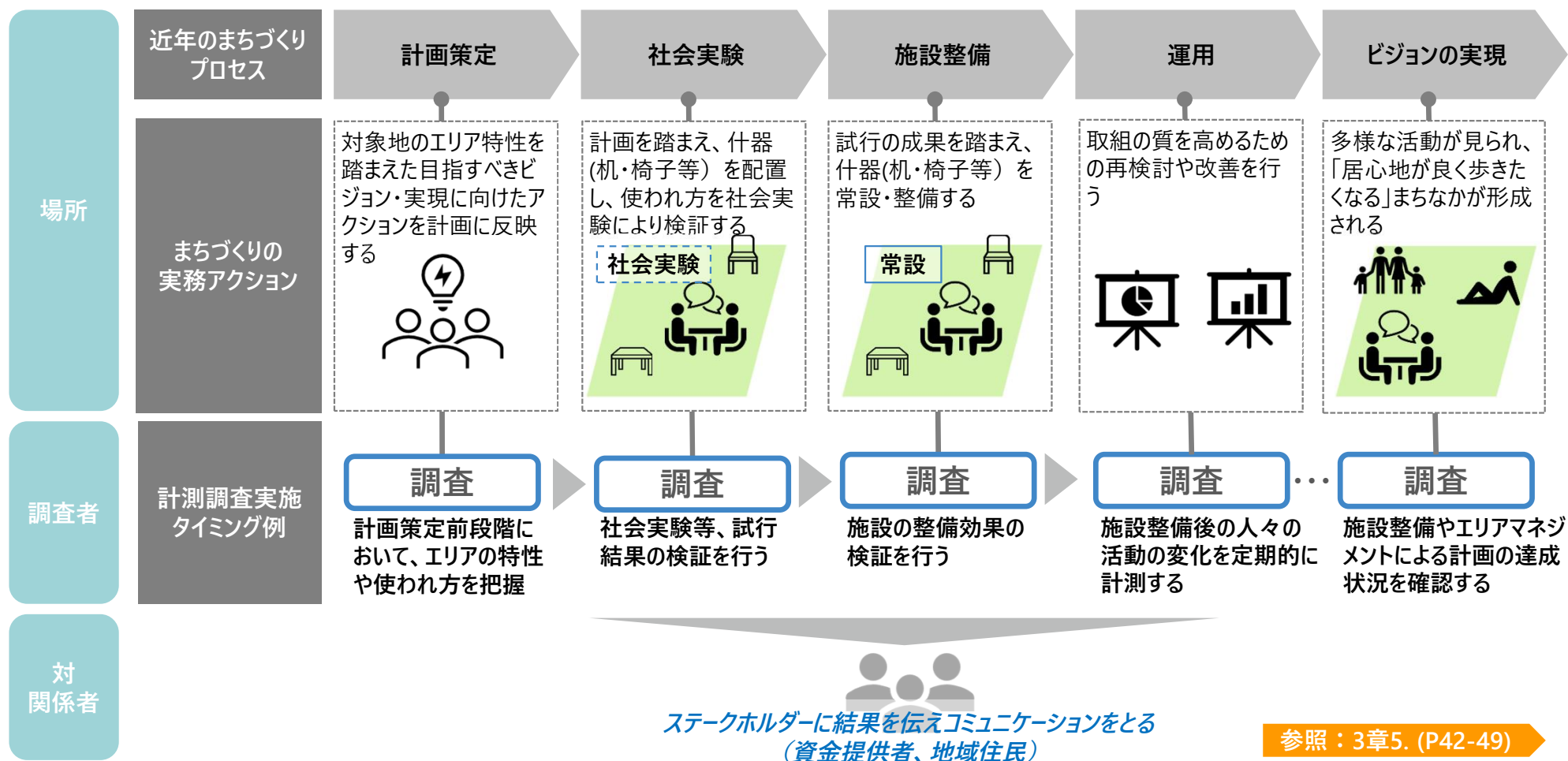


## (1) まちづくり活動のプロセスに応じた状態を把握する活用イメージ

近年、まちづくりの仕組みが、従来のハード整備・維持管理を中心とするものから、LQC（Lighter、Quicker、Cheaper）アプローチと呼ばれるような、最初から大規模なハード整備を実施するのではなく、仮設・暫定利用、実験など小規模な取組により試行・検証・改善を重ねながら段階的に育てていく方法に変化しています。

本指標は、まちづくりの各プロセスにおいて、まちづくりの実践者自らが指標となる項目を選択・追加しながらエリア独自の指標を設定し、まちなかの居心地の良さを体現する空間や人々の状態を定期的・定点的に調査、可視化することで、関係者間で、どのように空間を育てていくのか、どのように空間を使えたらいいかを意見交換し、各取組を試行・検証・改善していく時の一助となることを想定しています。本指標は、異なる都市間の比較のためではなく、特定のエリアで継続的に行う取組を向上させるためのツールです。

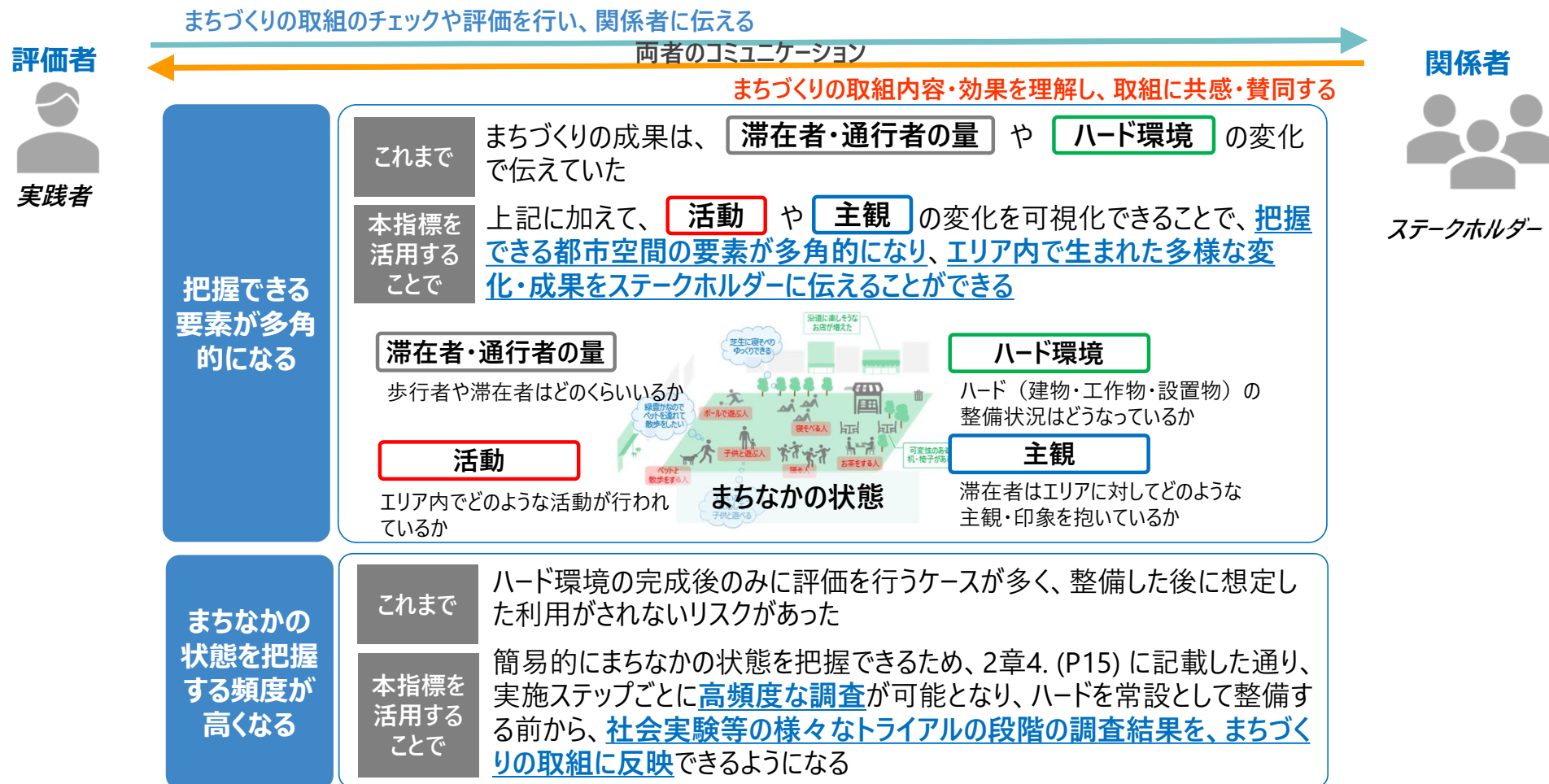
### ■ 近年のまちづくりプロセスにおける本指標の活用想定





## (2) 本指標活用のメリット

本指標は、民間まちづくり団体や行政が自ら実施するまちづくりの取組の効果を把握する等、様々な主体において様々な目的で使用できます。特に、まちづくりの現場において、取組によって得られた効果を、これまでよりもわかりやすく多角的に可視化できることで、ステークホルダーとの**よりよいコミュニケーションツール**となり、活動意義と継続の必要性の共感の輪を広げることができます。



**メリット①** これまでよりもわかりやすいかたちでまちづくりの効果が可視化され、共感を得る

**メリット②** 高頻度でPDCAを回せるようになり、本質的に居心地が良く、使われるまちなかになる

※その他、行政が発注した事業の事業評価をする際にも活用が期待できる

## 3章 調査要領

---

## (1) 実施ステップ

本指標を有効に活用するためには、エリアのビジョンや調査目的等を明確にし、関係者間で共通認識を図ったうえで調査を行うことが重要です。以下のステップを参考にして実施してください。

### Step01 事前準備

### Step02 調査

### Step03 結果の分析

#### ①ビジョンの共有



- 関係者間でのビジョンの共有
- ビジョンの実現に向けた仮説立案

#### ②調査目的の整理



- ビジョンを踏まえ調査目的を整理・共有する
- ステークホルダーを整理する
- アクションを想定する
- 調査結果の取り扱い方について検討する

#### ③エリア独自の指標設定



- 調査の目的、着眼点を踏まえ、調査項目、用語の定義等を確認する

#### ④調査エリア・実施時期等の決定



- 調査エリア・実施時期の決定
- 調査を行う人や各項目の調査時間を設定する

参照：3章2. (P19-23)

#### ⑤調査票を用いた現地計測

- 事前に地図等を用いて調査エリア・周辺エリアの機能や設えなどを確認、記入する
- 現地で調査を実施

参照：3章3. (P24-32)

#### ⑥分析ツールによるアウトプット作成

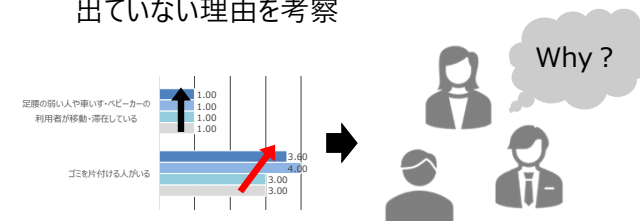


- 分析ツールに調査結果を入力
- 結果概要・詳細結果シートの作成

参照：3章4. (P33-41)

#### ⑦結果の考察

- 調査結果について、調査時の状況や過去の調査結果も踏まえながら考察
- 良い結果が出ている理由や思うように結果が出ていない理由を考察



参照：3章5. (P42-49)

#### ⑧結果の共有

- 調査結果をステークホルダーに共有
- 活動に対する理解醸成や合意形成に向けて説明・議論



来訪者/住民



土地所有者



行政/自治体

実施ステップ：



## ①ビジョンの共有



- 関係者間でビジョンと現状を確認・共有します
- エリアの課題の確認とビジョンの実現に向けた仮説を検討します

As-Is

エリアの現状

### エリアの現状を把握、エリア特性を整理

- 行政データ等を確認・分析し、居住者・来訪者属性等を把握
- エリアの居住者・来訪者アンケート等によるエリアニーズの確認

Gap

エリアの課題

### エリアの課題を確認

- 現状と目標とのギャップを分析
- エリアに存在する課題を確認し、実施すべき事項（Action）を洗い出す

To-Be

エリアの目標

### エリアの目標・将来像を確認

- 各種計画（総合計画、エリアビジョン等）におけるエリアの目標・将来像を確認

## ②調査目的の整理



- エリアの利害関係者を整理します
- エリアで起こりうる人々の活動内容を想定します
- 調査結果の取り扱い方について検討します

目的の整理



エリアのビジョン等を踏まえながら、調査目的を整理する

ステークホルダーの整理



まちづくり実践者 来訪者/住民 土地所有者 行政/自治体

アクションの想定

エリアの状況や実施している社会実験の内容などを踏まえ、人々の活動内容を想定する



調査結果の取り扱い方の検討

調査結果を今後の取組にどのように反映するか等、調査結果の活用方法を検討する



調査結果 → 今後の取組等へ反映

実施ステップ：

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

## ③エリア独自の指標設定





まちなかの居心地の良さには様々な要素があり、人・場所・時間等によって求められる要素は変わるものです。本指標は、全てのエリアに共通する指標として作成したものではありません。エリアの特性に応じて、まちづくりの実践者自らが指標となる項目を選択・追加しながらエリア独自の指標を設定し、まちなかの居心地の良さを体現する空間や人々の状態を調査・可視化することを目的としています。

「空間の状態確認シートB」や「居心地の良さ確認シート」について、調査の目的・着眼点を踏まえ、調査項目や用語の定義、調査時間等を事前に確認し、エリア独自の指標を設定してください。

シート名	確認対象	確認内容・回答方式	現地調査の所要時間の目安
基礎情報記入シート	調査日の基礎情報	<u>調査日の基礎情報</u> 等を記入する	2分
空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)	周辺建物・土地	利用状況別に <u>建物・土地の数</u> をカウントする	5分
空間の状態確認シートB (機能・設え状況)	対象地内・付近の施設	対象地内・付近の <u>施設の有無や充足</u> について確認を行う	10分
滞在者・通行者確認シート	滞在者・通行者	<u>滞在者・通行者の数</u> や <u>属性情報</u> をカウントする (動画撮影しカウントすることを推奨します)	5分
居心地の良さ確認シート	滞在者・通行者の活動 計測者の主観	居心地の良さの4要素について <u>滞在者・通行者の活動</u> 、及び <u>計測者の主観</u> で評価を行う (調査項目数に決まりはありません。関係者間で議論し、エリア特性に応じて必要な項目を選択・追加してください)	15分

## ③ エリア独自の指標設定

エリアの特性や状況も踏まえた、着目・選択する指標として、例として下表の内容が考えられます。

		住居系エリア	商業系エリア	業務系エリア	観光系エリア
エリア特性		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 住宅団地が近くにあり、家族連れが多く来訪するエリア</li> <li>✓ 周辺の居住者コミュニティにおいて活用されるため、子供はもちろん、大人の過ごしやすさも重要</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 駅前や商店街など、周辺住民だけでなく他エリアからも多く来訪するエリア</li> <li>✓ 来訪者が滞在することで、域内消費にもつながるため、行きたい・居たいと感じる空間であるかが重要</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業が集積しオフィスワーカーが多く来訪するエリア</li> <li>✓ 仕事や休息ができる空間であることが重要</li> <li>✓ さらに、イノベーション創出に向けた交流が生まれることも期待</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 古くからのまちなみが残り、観光客が多く来訪するエリア</li> <li>✓ 観光スポット一帯を回れるような歩きたくなる空間であるかが重要</li> </ul> 
エリア特性を踏まえて検討する項目	空間の状態確認シートB (機能・設え状況)	<p>&lt;着目する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 近くに交番・警察署がある</li> <li>✓ 子ども用の遊具がある</li> </ul>	<p>&lt;着目する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 飲食物を買うことができる設備・場所がある</li> </ul>	<p>&lt;着目する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Wi-Fi、電源が整備されている</li> </ul>	<p>&lt;着目する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 案内板等が外国語に対応している</li> </ul>
	居心地の良さ確認シート	<p>&lt;選択する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 赤ちゃんを連れてくる人がいる (安心感)</li> <li>✓ 地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている (安心感)</li> <li>✓ 子どもが声を出して遊んでいる (寛容性)</li> <li>✓ お茶をしている人がいる (安らぎ感)</li> </ul>	<p>&lt;選択する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 足腰の弱い人や車いす・ベーカーの利用者が移動・滞在している (安心感)</li> <li>✓ ダンス、楽器、スポーツなどの個々人の趣味の練習をしている人がいる (寛容性)</li> <li>✓ 沿道や近くでウィンドウショッピングや買い物をしている人がいる (期待感)</li> </ul>	<p>&lt;選択する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入ること、近づくことをためらわず、その場を利用している (沿道建物も含む) (期待感)</li> <li>✓ パソコンやWeb会議で仕事をしている人がいる (寛容性)</li> <li>✓ 読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる (安らぎ感)</li> <li>✓ 会話・交流している人がいる (期待感)</li> </ul>	<p>&lt;選択する項目 (例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 車やバイクの往来を気にせず歩いている人がいる (安心感)</li> <li>✓ 周囲より遅いペースで歩いている人がいる (寛容性)</li> <li>✓ まちなみや景色を眺める人がいる (安らぎ感)</li> <li>✓ 写真や動画を撮っている人がいる (期待感)</li> </ul>

実施ステップ：

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

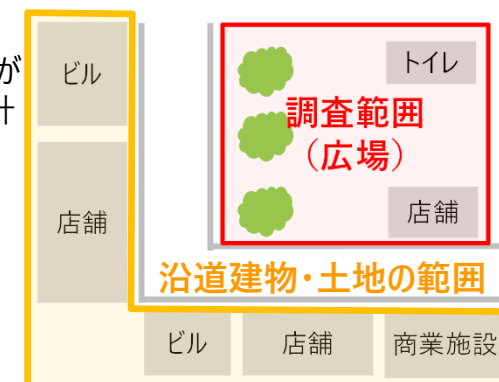
## ④ 調査エリアの決定

調査の目的や着眼点を踏まえながら、「計測対象範囲」と「空間の状態確認シートで計測する沿道建物・土地の範囲」、「周辺エリアとする概ねの範囲」を設定してください。「周辺エリアとする概ねの範囲」については、概ね300m圏内を想定していますが、エリアや来街者の特性を踏まえながら、設定してください。

なお、本指標は「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を支援するものとして、多様な人々の出会い・交流拠点である**各都市のまちなかで活用されることを想定**し作成しています。ただし、活動を把握する手法は商業地に限らず、観光地・住宅地等の人の集まる場所において有効であるため、対象地の制約はございません。

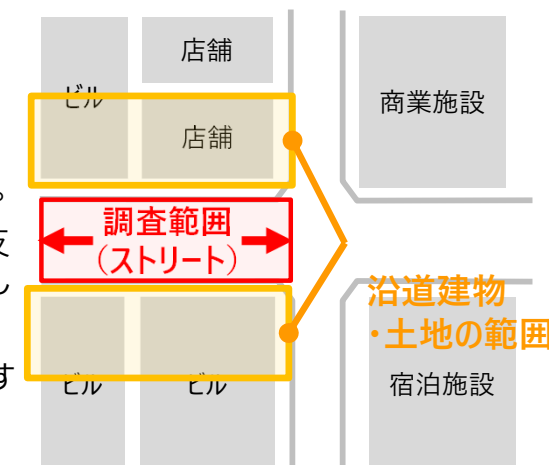
### — 広場の場合

- 官地である公園や広場空間、民地であればエリア開発などによって創出されたオープンスペースや暫定活用が可能な低未利用地等、**一定の範囲のなかで人が滞在できるまちなかのオープンスペース**を、広場と捉えて計測を実施してください。
- 調査対象地内で、調査する範囲について、予め地図等から指定してください。
  - ☑ 対象広場の広さや利用方法等に応じて、調査範囲を設定します。  
広い公園など、対象地全体を計測することが困難な場合は、エリアを絞って計測してもかまいません。
  - ☑ エリア内の複数箇所を計測してその比較をすることも可能です。



### — ストリートの場合

- 一定の延長がある通行空間**を、ストリートと捉えて計測を実施してください。
- 調査対象ストリート内で、調査する範囲について、予め地図等から指定してください。
  - ☑ 現地調査での負担を減らすため、対象ストリートの幅員や延長に応じて、調査範囲を設定します。
  - ☑ 車の交通量が多く幅員が広い場合や中央分離帯がある場合など、歩行者が物理的に道路の反対側へ渡ることが困難な通り（大通り等）については、ストリートの**片側半分**のみを調査範囲としてもかまいません（車道や反対側を調査対象から外す）。
  - ☑ 道路幅員が狭い場合や、歩車道分離がされていない場合など、歩行者が道路全体を移動しやすい通り（商店街通り等）については、ストリートの**全体**を調査範囲としてください。



実施ステップ：



## ④ 実施時期の決定

調査の目的や着眼点を踏まえながら、以下に示す項目について調査条件を設定してください。調査は同地点において、以下の項目の条件を固定し、複数回行うことを前提に、留意事項を参考にしながら設定を行ってください。なお、時期や天候、時間帯、更には当日の不測の状況による調査結果の偏りを無くす観点で、数日に分けて複数回調査し、その平均を確認することも有効です。

### 【条件設定方法：例】

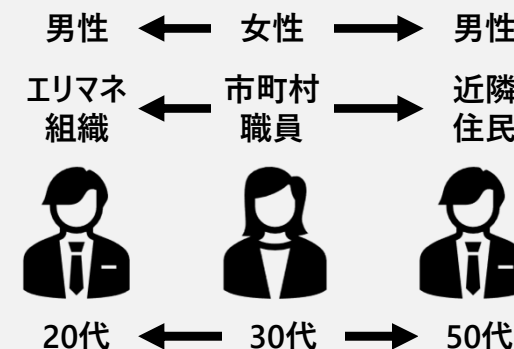
- 平常時のまちの状態を比較する場合：天候、曜日、時間帯等を固定して、同じ条件下で定期的に計測・比較することで、まちの状態の経年的な変化を把握できる
- イベント等の有無による状態変化を検証する場合：天候や時間帯等を固定して、イベント等のある時とない時で計測・比較することで、イベント等によるまちの状態の変化を把握できる

項目	設定内容	留意事項
<input checked="" type="checkbox"/> 調査時期	春・夏・秋・冬 イベントの有・無	- 季節・天候（気温）・曜日・時間帯によって、人の活動状況には差がありますので、留意して設定してください。 - 対象地だけでなく、周辺のイベントの有無も考慮して調査時期を設定してください。 - 上記、条件設定方法の例を参考に、どのような条件設定にするのかを、調査目的に合わせ設定してください。
<input checked="" type="checkbox"/> 天候	晴れ・曇り・雨（雪）	
<input checked="" type="checkbox"/> 曜日	平日・休日（祝日）	
<input checked="" type="checkbox"/> 時間帯	朝・昼・夜	

### 【調査者について】

- ✓ 基本的に2～3人で分担して実施してください。
- ✓ 各調査者の選定にあたっては、結果に偏りが出ないように、できるだけ、性別・年代等、属性に偏りのない、2～3人を選定してください。
- ✓ 調査者については、本指標の利用目的やエリアの状況も踏まえながら、市町村職員やエリマネ組織、近隣住民などから、最適な調査者を選定してください。

※分析ツールの入力シートには最大6人分の計測結果を入力することができます。





## 各調査シートの解説

### まちなかの居心地の良さを測る指標 調査票

まちなかの居心地の良さには様々な要素があり、人・場所・時間等によって求められる要素は変わるものです。本指標は、全てのエリアに共通する指標として作成したものではありません。エリアの特性に応じて、まちづくりの実践者自らが指標となる項目を選択・追加しながらエリア独自の指標を作成し、まちなかの居心地の良さを体現する空間や人々の状態を調査・可視化することを目的としています。どのように空間を育てていくのか、どのように空間を使えたらいいかなど関係者間で意見交換をする際に、本指標の活用が気づきのきっかけになることを期待しています。活用にあたっては、事前に関係者間で、調査の目的、着眼点、調査範囲の捉え方、調査項目、用語の定義等を検討、設定のうえ、調査を行うことを推奨します。

①

■ 調査者情報				
氏名		所属		
年齢		性別		
■ 調査対象エリアの調査時の状況				
計測範囲地図				
※事前に地図などで周辺の距離感や対象地の施設状況、計測範囲をすり合わせてください				
年月日(曜日)	年 月 日 ( )		<input type="checkbox"/> 祝日	
対象地名				
イベント名				
※イベント等を行っている場合に記載				
時間	開始時刻	時 分	終了時刻	時 分
天候	開始時	晴れ・曇り・雨(雪)	終了時	晴れ・曇り・雨(雪)
気温	開始時	℃	終了時	℃
風※	開始時	無風・微風・強風	終了時	無風・微風・強風
② メモ	(調査当日の居心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項があれば記載してください) 例：工事中の場所がある等			

※強風：樹木や電線が揺れ、風に向かって歩きにくくなる程度の風 (平均風速：10m/s以上)

### ① 基礎情報記入シート

このシートは調査者や現地調査当日の基礎情報を記録するためのものです。

#### ① 基礎情報

以下の内容を記入してください。

##### ■ 調査者情報

- 調査者の氏名、所属、年齢、性別

##### ■ 調査対象エリアの調査時の状況

- 計測範囲  
(事前に地図等を確認し、周辺エリアとして計測する範囲をすり合わせてください)
- 調査年月日、曜日  
(調査日が祝日の場合は、チェックボックスにチェック☑をつけてください。)
- 調査する対象地名
- 対象地でイベントや社会実験が行われている場合、そのイベント名
- 調査開始時と終了時の時間、天候、気温、風 (※)  
※強風：樹木や電線が揺れ、風に向かって歩きにくくなる程度の風  
(平均風速：10m/s以上)

#### ② MEMO

調査当日の居心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項があれば記載してください。

例：風が強い、工事中の場所がある、周辺でイベントを実施している 等

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

空間の状態確認シート A (沿道建物・土地状況)						
人々を惹きつけるまちなかづくりのためには、そこに訪れた人が「歩きたい、滞留したい」と感じることで居心地の良さがある空間づくりが重要です。まちの1階部分が人々の興味を引く、楽しい環境であることも居心地の良い空間には大切な要素であるため、沿道の1階部分の建物と土地の利用状況や、まちに開かれた設えになっているかを確認します。						
カテゴリー	状況	施設種	可視性	交流誘発要素 (イメージ)	カウント欄 ("正"の字を記入してください)	
① 建物	利用	飲食店 (例: カフェ、レストラン など)	利用者の様子が見やすい	屋外の滞留空間あり (テラス席等)		
			利用者の様子が見にくい	屋外の滞留空間なし		
			利用者の様子が見やすい	屋外の滞留空間あり (店頭販売等)		
		利用者の様子が見にくい	屋外の滞留空間なし			
		利用者の様子が見やすい	屋外の滞留空間あり			
		利用者の様子が見にくい	屋外の滞留空間なし			
	未利用	利用者の様子が見やすい	屋外の滞留空間あり			
		利用者の様子が見にくい	屋外の滞留空間なし			
		利用者の様子が見にくい	屋外の滞留空間なし			
② 土地	滞留空間として活用 ※広場や公園 など	イベントの実施 (キッチンカーの設置等を含む)				
		実施なし				
	滞留空間として未活用 ※空き地、駐車場としての利用 など					
③ MEMO	※上記以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に影響を与えと思われるものを記載					

## ②空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)

人々を惹きつけるまちなかづくりのためには、そこに訪れた人が「歩きたい、滞留したい」と感じることで居心地の良さがある空間づくりが重要です。まちの1階部分が人々の興味を引く、楽しい環境であることも居心地の良い空間には大切な要素となります。

このシートは、上記の観点で、沿道建物の1階部分（1階から見える地下部分を含む）や土地（スペース）の状況について確認するためのものです。

### ① 建物

観察された店舗・施設数を項目ごとにカウントしてください。

- 利用状況：何らかの施設として利用されているか、空き家・空き店舗か
- 施設種：飲食店、販売店は人々の興味を引く、楽しい環境に寄与する施設を想定しているため、販売店の定義は、事前に関係者間ですり合わせて調査を実施
- 可視性：1階部分はガラス張りで見えるなど、利用者の状態が見やすいか
- 交流誘発要素：テラス席、店頭販売等、屋外に滞在できる空間や人が活動できる空間が整備されているか



### ② 土地

観察された土地（スペース）を項目ごとにカウントしてください。

- 利用状況：広場等、利用できる空間として利用されているか、空地か ※駐車場のよう、土地利用があるものの、滞留できる空間としての利用ではない土地は「土地→未利用」に分類されます。
- 交流誘発要素：イベントが実施されているか（キッチンカーの設置等を含む）

### ③ 備考

上記以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に貢献すると思われるもの、若しくは阻害していると思われるものを記載してください。

(例：滞留空間にアートが展示されている、有名な建築物がある)

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

## 空間の状態確認シートB (機能・設え状況)

居心地が良い空間づくりには、その空間のハード環境等を把握したうえで、どのような機能が求められているかを考えることも大切であるため、調査エリア（周辺も含む）の機能や設えの有無等を確認します。  
事前に、地図等を用いて調査エリアに詳しい人と確認し、現地で実際の状況も確認して回答してください。また、必要に応じて項目を追加してください。  
※ 末尾に「※」マークのあるものは周辺エリア（対象範囲から概ね300mを想定）も含めて確認し、回答してください。

No	類型	項目	回答欄	メモ ※十分にあるか、不足しているかなど、 その場で感じたことを記載
1	滞在のしやすさ  ※ストリート限定項目のため広場では計測 回遊のしやすさ	飲食物を買うことができる設備・場所がある（※） （例：自動販売機、キッチンカー等）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
2		給水・手洗いができる場所がある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
3		雨宿りできる場所がある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
4		トイレがある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
5		多目的トイレがある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
6		案内所・案内版・デジタルサイネージ等がある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
7		No.6の案内板等が外国語に対応している（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
8		近くに交番・警察署がある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
9		人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
10		荷物を預けられる場所がある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
11		イスやテーブルなどの設備に可変性がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
12		座れる場がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
13		自由に使えるテーブルがある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
14		ゴミ箱がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
15		子ども用の遊具がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
16		誰でも自由には入れる芝生がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
17		夜間照明設備がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
18		車いす利用者やベビーカー利用者が通行しやすい段差の無い動線がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
19		防犯カメラがある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
20		様々な目的で活用できるスペースがある（場を可変的に活用できる）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
21		体操や運動ができるスペースがある（運動器具は無いが、体操・運動はできる開けたスペースを含む）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
22		イベントを開催できるスペースがある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
23		Wi-Fi、電源が整備されている	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
24		点字ブロックや音の鳴る信号がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
25		車両進入防止設備がある	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
26		建物等への車両進入が歩行空間を分離しないよう配慮されている	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
27		歩行者専用道路になっている（曜日や時間に応じた一時的な指定も含む）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
28		車道と歩道が分かれている	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
29		自転車レーンと歩道が分かれている	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
30		車両の速度を抑制する対策が講じられている（ゾーン30の指定、ハンブ、狭さく、シグイン等）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	
31		近くにレンタサイクルや電動キックボードなどシェアモビリティのポートがある（※）	1. はい 2. いいえ 3. 不明	

## ③空間の状態確認シートB (機能・設え状況)

居心地が良い空間づくりには、その空間のハード環境等を把握したうえで、どのような機能が求められているかを考えることも大切となります。

このシートは、周辺エリアも含めた計測範囲内の機能や設えの整備状況等について確認するためのものです。

事前に、地図等を用いて調査エリアに詳しい人と確認するなど、共通認識を図った上で調査してください。

### ① 空間の状態調査

項目ごとに3段階で当てはまるものに○を付けてください。

※項目の末尾に「※」マークのある項目は周辺エリア（対象範囲から概ね300mを想定）も含めて確認し、回答してください。

※回遊のしやすさはストリート限定項目のため、広場では計測不要です。

※シートは2枚あるため、忘れずに両シートの項目を確認してください。

※各項目の言葉の定義（例：歴史・伝統がある等）について、事前に関係者間で認識を合わせた上で、調査してください

43番以降の空欄項目には、空間の状態として把握しておきたい項目を自由に調査してください。

43	自由記述欄（必要な項目があれば適宜追加してください）		1. はい 2. いいえ 3. 不明	
44			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
45			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
46			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
47			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
48			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
49			1. はい 2. いいえ 3. 不明	
50			1. はい 2. いいえ 3. 不明	

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

## ④ 滞在者・通行者確認シート

※エリア全体の動画をビデオカメラ等で撮影し、動画を見ながらカウントすることを推奨します。

その空間にどのような属性の人がどれくらいいるのかを把握したうえで、空間の状態や居心地の良さの状況を踏まえ、必要となる機能やアクションを考えることが大切です。このシートは、滞在者・通行者の属性等を確認するためのものです。

グループごとに各行の②～⑦の項目について、記録をしてください。(④～⑦については、その内訳人数を正の字でカウント)

滞在者・通行者確認シート																		
居心地が良い空間づくりに向けて、その空間にどのような属性の人がどれくらいいるのかを把握したうえで、空間の状態や居心地の良さの状況も踏まえながら、必要となる機能やアクションを考えることが大切であるため、調査エリアの滞在者や通行者を確認します。 滞在者は、「その場で立ち止まり、何かしらの活動をした人」、通行者は、「滞在者以外の人」と定義し、事前に関係者間で、滞在・通行者量を考慮しながら計測時間を検討・設定のうえ、計測してください。また、正確な滞在・通行者量を把握したい場合は、エリア全体の動画を撮影し、カウントすることを推奨します。 ※滞在者・通行者については、以下のシートに、グループごとにカウントし、また性別以降は該当する人数を正の字で記入しながら計測してください。																		
No	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体 ※グループ：家族以外の少人数グループ	性別			年齢					行動 (通行者のみ)		国籍					
			男性	女性	わからない	乳幼児	小学生	中学生	大人	高齢者 WHOの定義 65歳以上	わから ない	スタスタ歩 いている	のんびり歩 いている	日本人	外国人	わからない		
1	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
2	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
3	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
4	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
5	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
6	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
7	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
8	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
9	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
10	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
11	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
12	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
13	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
14	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
15	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
16	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
17	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
18	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
19	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																
20	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体																

### ④ 計測時間

事前に関係者間で、滞在・通行者量を考慮しながら計測時間を検討・設定のうえ、計測してください。

### ⑤ 年齢

年齢は見た目が一番近いと思うカテゴリーにカウントしてください。どうしてもわからない場合「わからない」にカウントしてください。  
※ WHOの定義により65歳以上を高齢者の目安とします

### ⑥ 行動

スタスタ歩いている：早歩きで急いでいる  
のんびり歩いている：おしゃべりをしている、景色を眺めている等ゆっくりと歩いている

### ⑦ 国籍

日本人か外国人かをカウントしてください。わからない場合は「わからない」にカウントしてください。

### ③ 性別

わからない場合は「わからない」にカウントしてください。

### ② グループ属性

滞在者・通行者がどのようなグループ構成なのか記入してください。

※家族は夫婦2人の場合も含まれます。団体は10人以上で、ツアー等団体行動をしている集団のことを指します。

### ① 滞在・通行

その者・グループが「滞在者」か「通行者」か選択してください。

※滞在者：その場で立ち止まり、何かしらの活動をした人 / 通行者：滞在者以外の人

# 3. 現地計測方法の解説

**居心地の良さ確認シート**

**安心感** 安全性や清潔性、ゆとりが確保された空間であり、その場に滞在することができるかを確認します。  
キーワード：清潔・安全・治安

4段階で最も当てはまるものに○を付けてください。  
項目数に決まりはありません。関係者間で議論し、エリア特性に応じて選択・追加してください。

No	種類	項目	主観の確認ポイント	回答欄				メモ
				1. いない (全く居ない)	2. 一人いる (あなただけ)	3. 数人いる (自分も含む)	4. たくさんいる (自分も含む)	
1	主観	安心して赤ちゃんを連れてこられる場所だと感じる	空間にゆとりが足りていない、清潔感がある など	1	2	3	4	
	活動	赤ちゃんを連れてこられる人がいる		1	2	3	4	
2	主観	安心して子どもを遊ばせられる場所だと感じる	安全性が担保されている など	1	2	3	4	
	活動	子どもを遊ばせている		1	2	3	4	
3	主観	地域の人など人の目による防犯が行われている安全な場所だと感じる		1	2	3	4	
	活動	地域の人や警備員など人の目による防犯が行われている		1	2	3	4	
4	主観	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が気軽に利用できる場所だと感じる	段差などが無いゆとりがある空間、誰かが手を差し伸べている など	1	2	3	4	
	活動	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が移動・滞在している		1	2	3	4	
5	主観	空間が綺麗に利用されていて気持ちよく過ごせる場所だと感じる	自分や他人が出したゴミを片付けるなど、その場所が綺麗に利用されていて、清潔感がある など	1	2	3	4	
	活動	ゴミを片付ける人がいる		1	2	3	4	
6	主観	気持ち良く食事ができる場所だと感じる		1	2	3	4	
	活動	食事している人がいる		1	2	3	4	
7	主観	他の人との距離が不快ではないと感じる	人との距離を保つことができ、各自のパーソナルスペースが確保できる など	1	2	3	4	
	活動	人とぶつからない距離を保ち歩いている		1	2	3	4	
8	主観	滞在者・通行者同士がお互いに顔や名前を知っているように感じる		1	2	3	4	
	活動	挨拶や世間話をしている人がいる	地域のコミュニティが形成されている など	1	2	3	4	
9	主観	車やバイクの往來を気にせず歩けると感じる	歩行者優先の空間が形成されている など	1	2	3	4	
	活動	車やバイクの往來を気にせず歩いている人がいる		1	2	3	4	
10	主観	周りを気にせず立ち止まって会話できる場所だと感じる	立ち止まって会話ができる、安全でゆとりある空間である など	1	2	3	4	
	活動	立ち止まって会話をしている人がいる		1	2	3	4	
11	主観	夜一人で歩いても不安にならない場所だと感じる	※本項目は夜間に計測した場合に回答 明るく、人通りが多い空間である など	1	2	3	4	
	活動	夜一人で歩いている人がいる		1	2	3	4	
12	主観	※エリア特性に応じて追加（例：心地よさを感じる川のせせらぎの音が聞こえてくる等）		1	2	3	4	
	活動	※エリア特性に応じて追加（※活動に置き換えることが難しい場合は、主観のみの計測とするが、柔軟にアレンジしてください）		1	2	3	4	

①

## ⑤ 居心地の良さ確認シート

このシートは、確認した広場・ストリートの環境の居心地の良さについて「主観」「活動」項目から確認するものです。

以下の解説を参考に回答してください。

### ① まちなかの居心地のよさを測る指標

小項目ごとに対象地で滞在・通行して感じられること【主観】と、現場で行われている活動【活動】について、4段階で最も当てはまるものに○を付けて回答してください。

※項目数に決まりはありません。関係者間で議論し、エリア特性に応じて必要な項目を選択・追加してください。一方で、過去の調査と比較する観点では、できるだけ過去の調査と選択項目を変えずに使用することを想定し、項目を選択・追加することが望ましいです。

※事前に把握している知識は用いず、現場で確認された内容をもとに回答してください。

### 【活動】4段階の回答イメージ

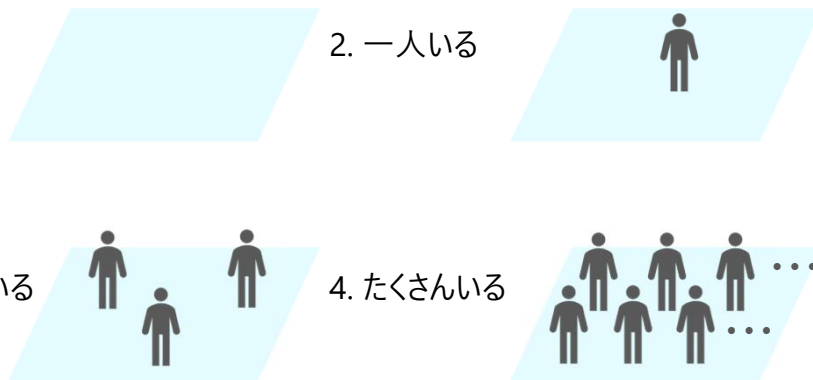
※ イメージは目安です。見込まれる滞在者・通行者量に応じて、関係者間で事前に相談し設定してください。

1. いない

2. 一人いる

3. 数人いる

4. たくさんいる



### 寛容性について

寛容性の項目については、その空間で行われている活動（アクティビティ）の種類を確認する「①活動の種類」と、多様な人々が自由に活動できるかを確認する「②主観・活動」の2シートに分かれています。

①活動の種類については、No. 1～20の項目については、後述の分析ツールで、安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の計測結果から自動的に計算されるため、計測不要です。

**寛容性** 多様な人々の多様な活動が行われる空間での、誰もが自由に滞在・通行できるかを確認します。  
キーワード：多様な活動・多様な人々  
※No. 1～20は、安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の計測結果から自動的に計算する事で、記入不要です。  
21～30は、主観・活動項目として、事前に確認した内容を、3段階に回答してください。

No	項目	回答欄				No	項目	回答欄			
		1. いない (全く居ない)	2. 一人いる (あなただけ)	3. 数人いる (自分も含む)	4. たくさんいる (自分も含む)			1. いない (全く居ない)	2. 一人いる (あなただけ)	3. 数人いる (自分も含む)	4. たくさんいる (自分も含む)
1	遊んでいる	1	2	3	4	16	散歩している	1	2	3	4
2	食事している	1	2	3	4	17	会話している	1	2	3	4
3	会話している	1	2	3	4	18	歩いている	1	2	3	4
4	寝ている	1	2	3	4	19	バイクや自転車に乗っている	1	2	3	4
5	何々の種類の練習をしている	1	2	3	4	20	音楽を聴いている	1	2	3	4
6	ペットを遊んでいる	1	2	3	4	21	整頓している	1	2	3	4
7	私服やスウェーダの多様な服装を着ている	1	2	3	4	22	散歩している	1	2	3	4
8	仕事をしている	1	2	3	4	23	歩-バイク-自転車に乗っている	1	2	3	4
9	写真や動画を撮っている	1	2	3	4	24	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
10	運動している	1	2	3	4	25	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
11	ぼーっとしている	1	2	3	4	26	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
12	読んでいる	1	2	3	4	27	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
13	読書・次で読書している	1	2	3	4	28	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
14	景色を眺めている	1	2	3	4	29	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4
15	散歩・ジョギング・ランニング	1	2	3	4	30	※自分特性に応じて計測	1	2	3	4

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（安心感）

### 安心感

...

安全性や清潔性、ゆとりが確保された空間であり、その場に滞在することができるかを確認します。

- ✓ 安心感にチェックがつくことで居心地の良さの最低レベルを満たせる
- ✓ 本要素に分類される項目にチェックがつかないと、人を遠ざける要因となる（そこに行こうと思わなくなる）

#	種類	項目	主観の確認ポイント
1	主観	安心して赤ちゃんを連れてこられる場所だと感じる	● 空間にゆとりがあり混雑していない、清潔感がある など
	活動	赤ちゃんを連れてくる人がいる	
2	主観	安心して子どもを遊ばせられる場所だと感じる	● 安全性が担保されている など
	活動	子どもを遊ばせている	
3	主観	地域の人など「人の目による防犯」が行われている安全な場所だと感じる	
	活動	地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている	
4	主観	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が気軽に利用できる場所だと感じる	● 段差などがないゆとりがある空間、誰かが手を差し伸べている など
	活動	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が移動・滞在している	
5	主観	空間が綺麗に利用されていて気持ちよく過ごせると感じる	● 自分や他人が出したゴミを片付けるなど、その場所が綺麗に利用されていて、清潔感がある など
	活動	ゴミを片付ける人がいる	
6	主観	気持ち良く食事ができる場所だと感じる	
	活動	食事をしている人がいる	
7	主観	他の人との距離が不快ではないと感じる	● 人との距離を保つことができ、各自のパーソナルスペースが確保できる など
	活動	人とぶつからない距離を保ち歩いている	
8	主観	滞在者・通行者同士がお互いに顔や名前を知っているように感じる	● 地域のコミュニティが形成されている など
	活動	挨拶や世間話をしている人がいる	
9	主観	車やバイクの往來を気にせず歩けると感じる	● 歩行者優先の空間が形成されている など
	活動	車やバイクの往來を気にせず歩いている人がいる	
10	主観	周りを気にせず立ち止まって会話できる場所だと感じる	● 立ち止まって会話ができる、安全でゆとりのある空間である など
	活動	立ち止まって会話をしている人がいる	
11	主観	夜一人で歩いても不安にならない場所だと感じる	● 本項目は夜間に計測した場合に回答 ● 明るく、人通りが多い空間である など
	活動	夜一人で歩いている人がいる	

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（寛容性）

### 寛容性

・・・

多様な人々の多様な活動が受け入れられる空間であり、違和感や疎外感なく滞在できるかを確認します。

- ✓ 寛容性にチェックがつくと、**滞在・訪問の間口を広げ、多様な人々**が集まりやすい（子ども～お年寄り、オフィスワーカー、外国人など様々な人を受け入れる）

### ① 活動の種類：その空間で行われている活動（アクティビティ）の種類を確認します

1	遊んでいる	7	私服やスーツなど多様な服装で来ている	13	読書・スマホ操作をしている	19	パフォーマンスをしている
2	食事をしている	8	仕事をしている	14	景色を眺めている	20	音楽にのっている
3	会話をしている	9	写真や動画を撮っている	15	陽だまり、日陰で過ごしている	21	勉強をしている
4	横になっている	10	運動をしている	16	散歩をしている	22	絵を描いている
5	個々の趣味の練習をしている	11	ぼーっとしている	17	お茶をしている	23	ボードゲームをしている
6	ペットを連れている	12	座っている	18	買い物をしている		

### ② 活動・主観：多様な人々が自由に活動できるかどうかを確認します

#	種類	項目	主観の確認ポイント
1	主観	気軽に出入りできる場所だと感じる（沿道建物も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外からでもその場所の様子が確認しやすく、また、その場所を利用しにくいと感じない</li> <li>● 対象エリアを利用するか迷わない など</li> </ul>
	活動	入ること、近づくことをためらわず、その場を利用している（沿道建物も含む）	
2	主観	子どもが声を出して遊べる場所だと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どものにぎやかな声が気にならない、大人だけでなく子どもも楽しめる空間である など</li> </ul>
	活動	子どもが声を出して遊んでいる	
3	主観	周りを気にせずうたた寝できる場所だと感じる	
	活動	うたた寝をしている人がいる	
4	主観	ダンス、楽器、スポーツなどの練習をしたい場所だと感じる	
	活動	ダンス、楽器、スポーツなどの個々人の趣味の練習をしている人がいる	
5	主観	ペットを連れて行っても良い場所だと感じる	
	活動	ペットを連れている人がいる	
6	主観	思い思いの時間を過ごすことができる場所だと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使い方が限定されていないなど、気兼ねなく個人の時間を楽しみながら過ごせる場所である など</li> </ul>
	活動	思い思いの時間を過ごしている	
7	主観	一人でも複数人でも過ごしやすい場所だと感じる	
	活動	一人で過ごす人、複数人で過ごす人々の両方がいる	
8	主観	好きな格好で行っても良い場所だと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仕事の休憩、遊びに来る、近所なので立ち寄るなど、様々なシーンで利用されている など</li> </ul>
	活動	私服やスーツなど多様な服装の人がいる	
9	主観	パソコンやWeb会議で仕事をするのが許容されると感じる	
	活動	パソコンやWeb会議で仕事をしている人がいる	
10	主観	自分のペースで歩ける場所だと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他人の行動を気にせずゆっくり歩ける など</li> </ul>
	活動	周囲より遅いペースで歩いている人がいる	
11	主観	ジョギングなどの軽い運動ができそうな場所だと感じる	
	活動	ジョギングなどの軽い運動をしている人がいる	

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（安らぎ感）

### 安らぎ感

...

落ち着いた空間であり、くつろぎを求めて滞在できるかを確認します。

- ✓ 安らぎ感にチェックがつくと、ゆっくりとくつろげることで滞在時間が増加しやすい
- ✓ リフレッシュにわざわざ行く人もいれば、ちょっと休憩したいときにふらっと訪れるような人もいる

#	種類	項目	主観の確認ポイント
1	主観	ぼーっとできる場所だと感じる	● ぼんやり考え事ができるような場所である など
	活動	ぼーっとしている人がいる	
2	主観	座って休憩したり、くつろいだりしたい場所だと感じる	●
	活動	座って休憩したり、くつろいでいる人がいる	
3	主観	横になってくつろぎたい場所だと感じる	● 開放感があり、横になるなど、のんびりと過ごすことができる場所である など
	活動	横になって過ごしている人がいる	
4	主観	ゆったり読書をしたい場所だと感じる	● ゆったりとくつろげるような、静かな場所である など
	活動	読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる	
5	主観	緑などに囲まれて自然を感じられる場所だと感じる	● 自然を感じ、リラックスできる場所である など
	活動	花壇や緑などを眺める人がいる	
6	主観	水辺を眺め、たたずんでいられる場所だと感じる	
	活動	水辺を眺め、たたずんでいる人がいる	
7	主観	陽だまり、または日陰で過ごしたい場所だと感じる	● 冬には日が当たる場所、夏には日陰になる場所があり、心地よく過ごせる場所である など
	活動	日光を楽しむ、日陰で過ごす人がいる	
8	主観	眺めたいまちなみや景色があると感じる	● 自然やまちなみを楽しめる など
	活動	まちなみや景色を眺める人がいる	
9	主観	ぶらぶらと歩きたい場所だと感じる	
	活動	散歩をしている人がいる	
10	主観	長居したい場所だと感じる	
	活動	長時間滞在している人がいる（長時間：30分程度）	
11	主観	ゆったりお茶をしたい場所だと感じる	
	活動	お茶をしている人がいる	
12	主観	体を軽く動かしてリラックスできる場所だと感じる（ヨガや体操・ストレッチ等）	
	活動	ヨガや体操・ストレッチをしている人がいる	



## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（期待感）

### 期待感

...

空間や活動に対してわくわくする空間であり、その場に滞在したいかを確認します。

- ✓ 期待感にチェックがつくと、その場やそこで行われる活動、他者との交流に対して期待感を持ち、積極的に行きたいと感じ、それを目的にわざわざ出向く可能性が高い
- ✓ 非日常が味わえる、人を誘って行きたい、他人にも教えたい

#	種類	項目	主観の確認ポイント
1	主観	友人や恋人と来て過ごしたい場所だと感じる	● その場所が誰かを誘って行きたい場所であり、友人等と楽しむことができる場所である など
	活動	笑いながら話をしている人がいる	
2	主観	複数人で飲食をしたい場所だと感じる（ピクニックを含む）	
	活動	複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）（※）	
3	主観	人との新しい出会いがありそうな場所だと感じる	● ペットを連れてくる人とその場にいる人の会話や、店主から地域の情報を教えてもらう など
	活動	会話・交流している人がいる	
4	主観	人が群がりそうな面白そう・雰囲気の良いものがある場所だと感じる	● お店に並んでいる、パフォーマンスをしている人の周囲に人が集まっている など
	活動	何かに人が群がっている	
5	主観	沿道や近くでウィンドウショッピングを楽しみたい場所だと感じる	
	活動	沿道や近くでウィンドウショッピングや買い物をしている人がいる	
6	主観	パフォーマンスができる場所だと感じる	● 誰でも自由に弾けるピアノを設置している など
	活動	パフォーマンスをしている人がいる	
7	主観	魅力的なコンテンツがあり、子どもや大人が楽しく遊べる場所だと感じる	
	活動	子どもや大人が夢中になって遊んでいる	
8	主観	写真や動画に映える・誰かにシェアしたい場所だと感じる	
	活動	写真や動画を撮っている人がいる	
9	主観	雰囲気に合った音楽が流れていると感じる	
	活動	音楽にのっている人がいる	

現地計測後、調査結果を分析ツールの入力シートに入力してください。  
入力シートは「入力①」「入力②」の2シートから構成されています。  
入力後、計測した結果がアウトプットとして「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート」に表示されます。

## 1. 基礎情報の入力 (シート名: 入力①) 1/3

調査対象地や調査日の情報等基礎情報を入力します。調査票にない入力項目があるので、確認して入力してください。

■ 結果の出力内容については「調査結果概要シート」参照: 3章4. (P37) で解説しています。

① 基礎情報の入力

① 「基礎情報記入シート」に基づき、対象地・調査日の情報を入力してください。 ※調査者情報については、「2. 調査結果の入力」に入力欄があります。

年月日・曜日	2023年11月16日	(例) : ○○年○月○日、と入力してください。
水曜日		※ プルダウンの選択から、調査日の曜日を選択してください。
祝日		※ 調査日が「祝日」の場合、プルダウンから選択してください。
対象地名	○○ストリート	(例) : ○○ストリート、○○通り、国道○号線、○○線、等と入力してください。
対象地所在地	東京都●●区	
イベント名	○○イベント	※ イベント等を行っている場合に記載してください。
調査開始時刻	14:30	(例) : ○○:○○、と入力してください。
調査終了時刻	15:00	(例) : ○○:○○、と入力してください。
調査開始時の天候	晴れ	※ プルダウンの選択から、「晴れ」または「曇り」、「雨 (雷)」を選択してください。
調査終了時の天候	晴れ	※ プルダウンの選択から、「晴れ」または「曇り」、「雨 (雷)」を選択してください。
調査開始時の気温 (°C)	18 °C	
調査終了時の気温 (°C)	19 °C	
調査開始時の風	微風	※ プルダウンの選択から、「無風」または「微風」、「強風」を選択してください。
調査終了時の風	無風	※ プルダウンの選択から、「無風」または「微風」、「強風」を選択してください。
×E (調査当日の感心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項)	×E	

② 対象地が広場の場合は入力してください。 ※わかる範囲でご回答ください。また、項目・単位は適宜変更していただいて構いません。

計測範囲面積 (㎡)	300 ㎡	
全体面積 (㎡)	300 ㎡	※ 計測範囲と広場の全体面積が異なる場合に記載してください

③ 対象地がストリートの場合は入力してください。 ※わかる範囲でご回答ください。また、項目・単位は適宜変更していただいて構いません。

計測範囲延長 (m)	300 m	
車道の幅員 (m)	300 m	
歩道の幅員 (m)	300 m	
歩道を通る車の出入り口数	2カ所	

④ 広場・ストリートに関わらず、対象地の情報を入力してください。 ※わかる範囲でご回答ください。また、項目・単位は適宜変更していただいて構いません。

最寄り駅/駅からの距離	300 m	
最寄りバス停からの距離	300 m	
道路情報: 車線数	2 車線	
道路情報: 最高速度	2 km/時	
道路情報: ピーク時の車両交通量	2 台/時	
道路情報: ピーク時の歩行者交通量	2 人/時	

⑤ 調査の履歴情報を入力してください。(シート結果\_概要結果に表示され、過去調査との比較が可能)

調査回数 (回)	4 回目	※ 同調査回数を入力してください。
前回の主な取組 (2回目以降の場合)	前回調査からイベントの開催回数を増やした	(例) : 「○○ / XX / △△...」のように入力してください。

	過去調査① (前回調査)	過去調査②	過去調査③	
調査年月日 (西暦/月/日形式で入力)	2023年2月10日	2022年3月2日	2022年1月1日	※過去の調査年月日を入力してください。
滞在者数 (人)	37 人	13 人	10 人	※過去調査の滞在者数を入力してください。
通行者数 (人)	34 人	10 人	10 人	※過去調査の通行者数を入力してください。
安心感 (点)	4 点	5 点	4 点	※過去調査における安心感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
寛容性 (点)	3 点	3 点	3 点	※過去調査における寛容性の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
安らぎ感 (点)	6 点	6 点	6 点	※過去調査における安らぎ感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
期待感 (点)	7 点	7 点	3 点	※過去調査における期待感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。

### ① 対象地・調査日情報の入力

対象地・および調査日の情報を入力してください。

### ② 広場情報の入力 (広場のみ)

対象地が広場の場合、広場情報を入力してください。

### ③ ストリート情報の入力 (ストリートのみ)

対象地がストリートの場合、ストリート情報を入力してください。

### ④ 対象地情報の入力 (広場・ストリート共通)

対象地の最寄りの公共交通機関からの距離や道路情報を入力してください。

### ⑤ 調査履歴情報の入力

対象地におけるこれまでの調査結果がある場合は、入力してください。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

① 調査者情報

②

調査項目  
(空間の状態確認シートA・B・  
居心地の良さ確認シート)

結果入力欄(出力用)

平均値抽出欄

調査結果入力欄

過去調査結果入力欄A

## II. 調査結果の入力 (入力①) 2/3

- 「滞在者・通行者確認シート」以外の調査結果を入力します。
- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートA・B」「居心地の良さ確認シート」  
参照：3章3. (P25-26,P27-32)
  - 結果の出力内容については「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート③～⑨」  
参照：3章4. (P37,39-41)

### ① 調査者情報の入力

調査票記入者の情報について入力してください。最大6人分の計測結果を入力することができます。

所属・職名・職種・氏名・性別・国籍：文字で入力してください。  
年齢：年齢を数字で入力してください。

### ② 回答の入力

各確認シートの回答情報について各列の項目に対する調査結果を入力してください。また、項目を追加、もしくは変更している場合は、項目名を変更してください。

#### ○ 結果入力欄

調査票にカウント、又は○がつけられている数値を入力してください。

#### ○ 平均値抽出欄

結果入力欄に記入された数値の平均値が自動で計算されます。

#### ○ 結果入力欄 (出力用)

- 平均値等を参考に代表値を手動で入力してください。
- ※ 平均値をコピーする際は、計算式をコピーしないように注意してください。
  - ※ 「自由記述欄」には必要に応じて空間の状態確認シートBの項を自由に追加できます。

過去調査結果入力欄B

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

① 調査者情報

② 調査項目  
(空間の状態確認シートA・B・  
居心地の良さ確認シート)

結果入力欄(出力用)

平均値抽出欄

調査結果入力欄

過去調査結果入力欄A

## II. 調査結果の入力 (入力①) 3/3

過去に調査を実施している場合は、過去調査結果入力欄に過去の調査結果を入力してください。

### ○ 過去調査結果入力欄A

「滞在者・通行者確認シート以外」の項目について、過去調査の数値を入力してください。

過去調査結果入力欄B

### ○ 過去調査結果入力欄B

「滞在者・通行者確認シート」の項目について、過去調査の数値を入力してください。

※ 過去調査結果は過去調査の分析ツールの対象セルの数値をコピー＆ペーストすることで簡単に入力することが可能です。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

B 「滞」在者・通行者確認シートの調査結果を入力してください。(入力結果はシート「入力①」に表示されます。)

通行者計測時間		滞																				
通行者計測時間	12分	滞	14分																			
入力不要	#	グループ情報		性別	年齢	行動	国籍	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他				
		滞	通行	1人	or家族	orグループ	男性	女性	わからない	乳幼児	小学生	中学生	大人	高齢者	わからない	スタスタ歩いている	のんびり歩いている	日本人	外国人	わからない		
滞	家族	1	滞	家族	1	3																
滞	グループ	2	滞	グループ	10	3			2	1	4	3	4	5	3	5	10	10	5			
滞	グループ	3	滞	グループ	8	8			2	2	3	11	11	11			16	15				
通行	グループ	4	通行	グループ	1	3			5	1	2	4	4	4		1	3	3				
通行	団体	5	通行	団体	3	3						3	2	3			8	8				
通行	団体	6	通行	団体	5	5						6	4	10			10	9				
滞	1人	7	滞	1人	10	10				3	7	8	1	9		3	17	15	5			
滞	家族	8	滞	家族	3	5			2			8	8	6	2	3	7	10				
通行	1人	9	通行	1人							1					1		1				
通行	1人	10	通行	1人								1					1	1				
滞	1人	11	滞	1人								1					1	1				
滞	1人	12	滞	1人									1				1	1				
		13																				
		14																				
		15																				
		16																				
		17																				
		18																				
		19																				
		20																				
		21																				
		22																				
		23																				
		24																				
		25																				
		26																				
		27																				
		28																				
		29																				
		30																				
		31																				
		32																				
		33																				
		34																				
		35																				
		36																				
		37																				
		38																				
		39																				
		40																				
		41																				
		42																				
		43																				
		44																				
		45																				
		46																				
		47																				
		48																				
		49																				
		50																				
		51																				
		52																				
		53																				
		54																				
		55																				
		56																				
		57																				
		58																				
		59																				
		60																				

## II. 調査結果の入力 (入力②)

このシートは「滞

- 調査票の記入内容については「滞
- 結果の出力内容については「調査結果詳細シート①・②」で解説しています。

### ① 計測時間の入力 (滞

滞

### ② 回答の入力 (滞

滞

- 選択回答方式の場合 (グループ情報)  
回答した選択肢をリストから選択してください。
- カウント回答方式の場合 (性別・年齢・行動・国籍)  
カウントされた数 (正の字) を数値に直して入力してください。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

## まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver. 1.1）調査結果概要

### ■ 基礎データ

①	対象地名:	〇〇ストリート	(広場の場合) 計測範囲 300 m 全体面積 300 m <sup>2</sup>	(ストリートの場合) 計測範囲: 300 m 車道の幅員: 300 m 歩道の幅員: 300 m 歩道を遮る車の出入口数: 2 カ所	調査日時: 2023年11月16日 水曜日 祝日 14:30 ~ 15:00
	対象地所在地:	東京都●●区			天候: (開始時) 晴れ (終了時) 晴れ 風量: (開始時) 微風 (終了時) 無風 気温: (開始時) 18℃ (終了時) 19℃
	イベント名:	〇〇イベント	(共通) 最寄り駅/最寄りバス停からの距離: 300 m 最寄りバス停からの距離: 300 m 車線数: 2 車線 最高速度: 2 km/時 ピーク時の車両交通量: 2 台/時 ピーク時の歩行者交通量: 2 人/時		

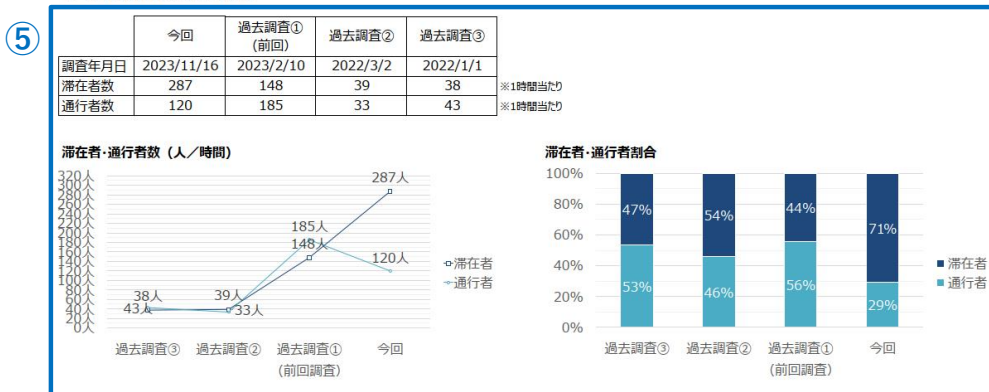
### ■ 人々の活動量

②	通行者数:	120 人/時間	④ 写真
	※ 通行者 = 滞在者以外の人		
	滞在者数:	287 人/時間	
	※ 滞在者 = その場で立ち止まり、何かしらの活動をした人		
交流者数:	193 人/時間		
	※ 交流者 = 二人以上で滞在していた人		

### ■ 調査回数

③	調査回数:	4 回目	前回: 2023年2月10日
	前回からの主な取組 (2回目以降の場合)	前回調査からイベントの開催回数を増やした	
	前回調査からイベントの開催回数を増やした		

### ■ 過去調査結果との比較



入力シートに入力した調査結果が、調査結果シートにグラフ等により自動で表示されます。

調査結果シートは「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート①～⑨」の10シートから構成されています。

なお、調査結果詳細シートは「直近1回分結果」と「4回分結果」の2種類を用意しています。用途に合わせてご使用ください。

## 調査結果概要シート

このシートは調査結果を簡単にまとめ、概要を共有するために用いる出力シートです。

### ① 基礎データ

「対象地名」「対象地住所」「調査日時」「調査日の風量、気温」の基礎データが表示されます。

### ② 人々の活動量

「通行者数」「滞在者数」「交流者数」が表示されます。  
※交流者数：二人以上で滞在していた人数

### ③ 調査回数

「同ストリートにおける今回の調査回数」「前回調査の調査日」「前回から今回にかけての主な取り組み内容」が表示されます。

### ④ 写真

調査時に取得した調査対象地の様子がわかる写真を貼り付けてください。

### ⑤ 過去調査結果との比較

過去・今回調査における、「通行者数」「滞在者数」を折れ線グラフ、滞在者・通行者割合を棒グラフで表示しています。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

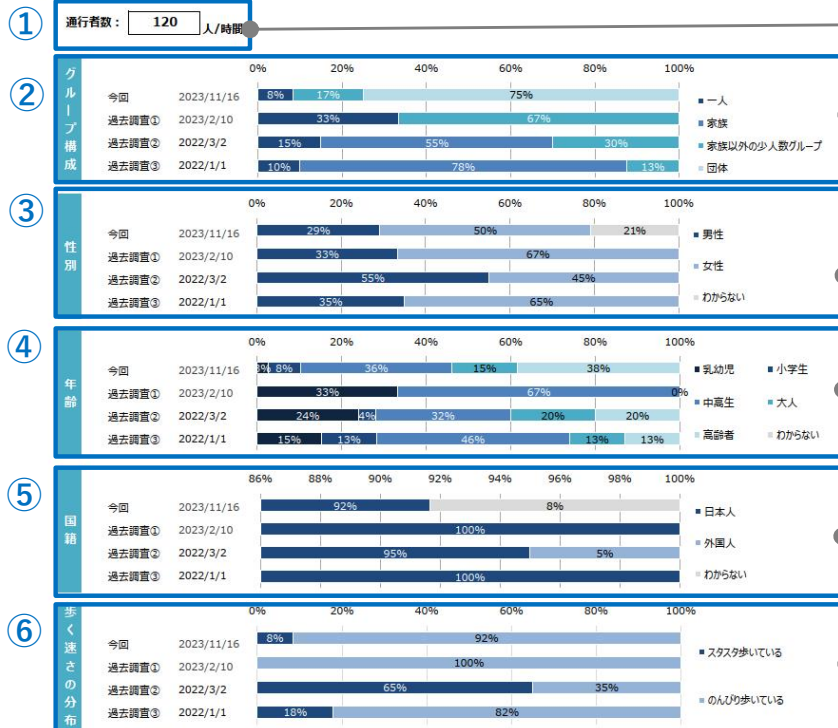
Step03  
結果の分析

調査日: 2023/11/16

まちなかの居心地の良さを測る指標 (改訂版 ver.1.1) 調査結果詳細 ②

## 通行者の確認

### B. 通行者の量・多様性



### 【留意事項】

- ※ 滞在者: その場で立ち止まり、何かしらの活動をした人
- ※ 通行者: 滞在者以外の人
- ※ 交流者: 二人以上で滞在していた人  
(交流者は、調査結果詳細シート①のみ表示されます)

## 調査結果詳細シート①・②

調査結果詳細シート①・②では「通行者・滞在者確認シート」の結果を可視化しています。

■ 調査票の記入内容については「滞在者・通行者確認シート」

■ 結果の入力内容については「入力シート②」で解説しています。

参照: 3章3. (P27)

参照: 3章4. (P36)

※「歩く速さの分布」を除きシート①・②の表示内容は共通のため、シート②をサンプルに解説しています。

※グラフのデータラベルが重なる場合はオブジェクトを移動する等調整してください。

### ① 通行者数 (滞在者数・交流者数)

今回の通行者数 (滞在者数・交流者数) が1時間当たりの値で表示されます。

### ② グループ構成

通行者 (滞在者) のグループ構成が棒グラフで表示されます。

### ③ 性別

通行者 (滞在者) の総数と性別ごとの人数が棒グラフで表示されています。

### ④ 年齢

通行者 (滞在者) の年齢構成が棒グラフで表示されます。

### ⑤ 国籍

通行者 (滞在者) の国籍 (日本人/外国人/わからない) が棒グラフで表示されます。

### ⑥ 歩く速さの分布 (シート②のみ)

通行者が「スタスタ歩いている」か「のんびり歩いている」かが棒グラフで表示されます。

※通行者限定項目のため、シート①には表示されません。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

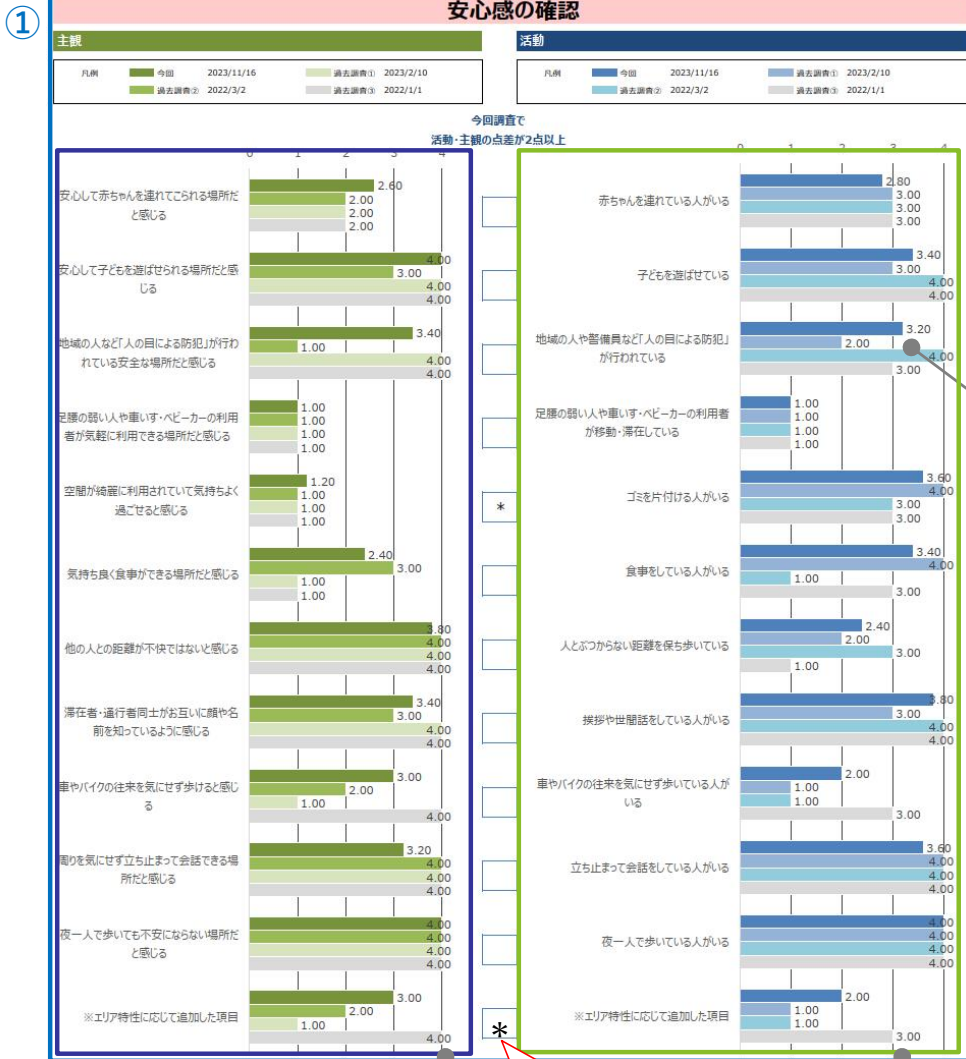
Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

調査日: 2023/11/16

## まちなかの居心地の良さを測る指標 (改訂版 ver.1.1) 調査結果詳細 ③



活動と主観のスコアが2点以上乖離する場合、\*が表示されます。分析の考え方は3章5. (P44) を参照してください。

### 調査結果詳細シート④・⑤・⑥・⑦

調査結果詳細シート④～⑦では「居心地の良さ確認シート」の結果をまとめています。

- 調査票の記入内容については「居心地の良さ確認シート」参照：3章3. (P28-32)
- 結果の入力内容については「入力シート①」で解説しています。参照：3章4. (P34-35)

#### ① 安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の確認

「居心地の良さ確認シート」の設問項目別に獲得したスコアが、上から「今回」「過去調査①」「過去調査②」「過去調査③」の順に、棒グラフで表示されています。

- ※ 今回調査未選択項目には項目名の上に「(今回調査未選択)」と表示されます。
- ※ 過去の調査と比較するため、できるだけ過去の調査と選択項目を変えずに使用することが望ましいですが、1度調査した後に精査を行い、選択項目を見直すことも可能です。
- ※ 1回のみ調査の場合、分析ツールのExcelデータ上にある「結果\_詳細結果 (直近1回分結果)」シートを使用してください。

- **主観**  
主観項目の結果が表示されます
- **活動**  
活動項目の結果が表示されます。



# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

調査日: 2023/11/16

## まちなかの居心地の良さを測る指標 (改訂版 ver.1.1) 調査結果詳細 ⑧

### 空間の状態確認結果A (沿道建物・土地状況)



### 調査結果詳細シート⑧

調査結果詳細シート⑧では「空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)」の結果をまとめています。

- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートA (沿道建物・土地確認状況)」参照: 3章3. (P25)
- 結果の入力内容については「入力シート①」参照: 3章4. (P34-35) で解説しています。

#### ① 利用状況

建物・土地の利用状況を円グラフで表示しています。

#### ② 可視性 (建物のみ)

建物の中の利用者の状態の見やすさが円グラフで表示されます。利用者の様子が見やすい: 利用者がいた場合に、その様子が見やすいしつらえになっている  
利用者の様子が見にくい: 利用者がいても、その様子が見にくいしつらえになっている

#### ③ 滞留空間

交流を誘発する要素である、「建物外に滞留スペースがある建物」「イベントを実施している土地」の数が表示されます。

#### ④ 施設種別建物件数

施設種別に建物の数が棒グラフで表示されます。

#### ⑤ 土地利用件数

利用状況、イベント情報別に土地の数が棒グラフで表示されます。

#### ⑥ 備考

調査項目以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に貢献すると思われるもの若しくは阻害していると思われるものとして記載した内容が表示されます。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

Step01  
調査準備

Step02  
調査

Step03  
結果の分析

調査日: 2023/11/16

## まちなかの居心地の良さを測る指標 (改訂版 ver.1.1) 調査結果詳細 ⑨

### 空間の状態確認結果B (機能・設え状況)

① 分類	#	項目	結果	分類	#	項目	結果	
滞在のしやすさ	1	飲食物を置くことができる設備・場所がある	—	景観・雰囲気	32	アート・展示空間がある	—	
	2	給水・手洗いができる場所がある	✓		33	電灯/樹木に、目にとまるような魅力的な装飾が施されている	—	
	3	雨宿りできる場所がある	—		34	管理の行き届いた緑地(樹木・花壇等)がある	—	
	4	トイレがある	—		35	アスファルト以外の化粧材が整備されている	✓	
	5	多目的トイレがある	✓		36	無電柱化されている	✓	
	6	案内所・標示板・デジタルサイン等がある	✓		37	暖水空間がある	—	
	7	案内板等が外国語に対応している	✓		38	歴史・伝統を感じる建物がある	—	
	8	近くに交番・警察署がある	✓		39	伝統的なお宿がある	✓	
	9	人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある	✓		40	近くに駐輪場がある	✓	
	10	荷物を預けられる場所がある	✓		41	近くに駐車場がある	✓	
	11	イスやテーブルなどの設備に可変性がある	✓		42	近くに公共交通(駅・バス停)がある	—	
	12	座れる場がある	✓		自由記述	43		—
	13	自由に使えるテーブルがある	✓			44		—
	14	ゴミ箱がある	✓			45		—
	15	子ども用の遊具がある	✓			46		—
	16	誰でも自由に使える芝生がある	—			47		—
回遊のしやすさ	17	夜間照明設備がある	✓	凡例 <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 不明				
	18	車いす利用者やベビーカー利用者が通行しやすい段差の無い動線がある	✓					
	19	防犯カメラがある	✓					
	20	様々な目的で活用できるスペースがある(機も可変的に活用できる)	✓					
	21	待機や運動に利用可能な場がある	✓					
	22	イベントを開催できるスペースがある	✓					
	23	Wi-Fi、電源が整備されている	✓					
	24	点字ブロックや音の鳴る標識がある	✓					
	25	車両進入防止設備がある	✓					
	26	建物等への車両出入口が歩行空間を分離しないよう配慮されている	✓					
	27	歩行者専用道線になっている(曜日や時間に応じた一時的な指定も含む)	—					
	28	車道と歩道が分かれている	—					
	29	自動車レーンと歩道が分かれている	—					
	30	車両の速度を抑制する対策が講じられている(ゾーン30の指定、ハンパ、狭く、シケイン等)	—					
	31	近くにレンタサイクルや電動キックボードなどシェアモビリティのポートがある	—					

### 調査結果詳細シート⑨

調査結果詳細シート⑨では「空間の状態確認シートB (機能・設え状況)」の結果をまとめています。

- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートB (機能・設え状況)」参照：3章3. (P26)
- 結果の入力内容については「入力シート①」参照：3章4. (P34-35) で解説しています。

#### ① 空間の状態確認結果B (機能・設え状況)

機能・設えの不足・充足や有無について表形式で表示しています。  
(「不明・該当なし」の場合は「-」)

下記の通り、設問に対する回答を「」「」「-」で表記しています。  
\*：反転項目の場合は「」と「」が逆になっているため留意してください。

※「十分にある」「不足している」は調査者が対象地の目指す姿に対して十分か不十分かという観点でチェックしてください。

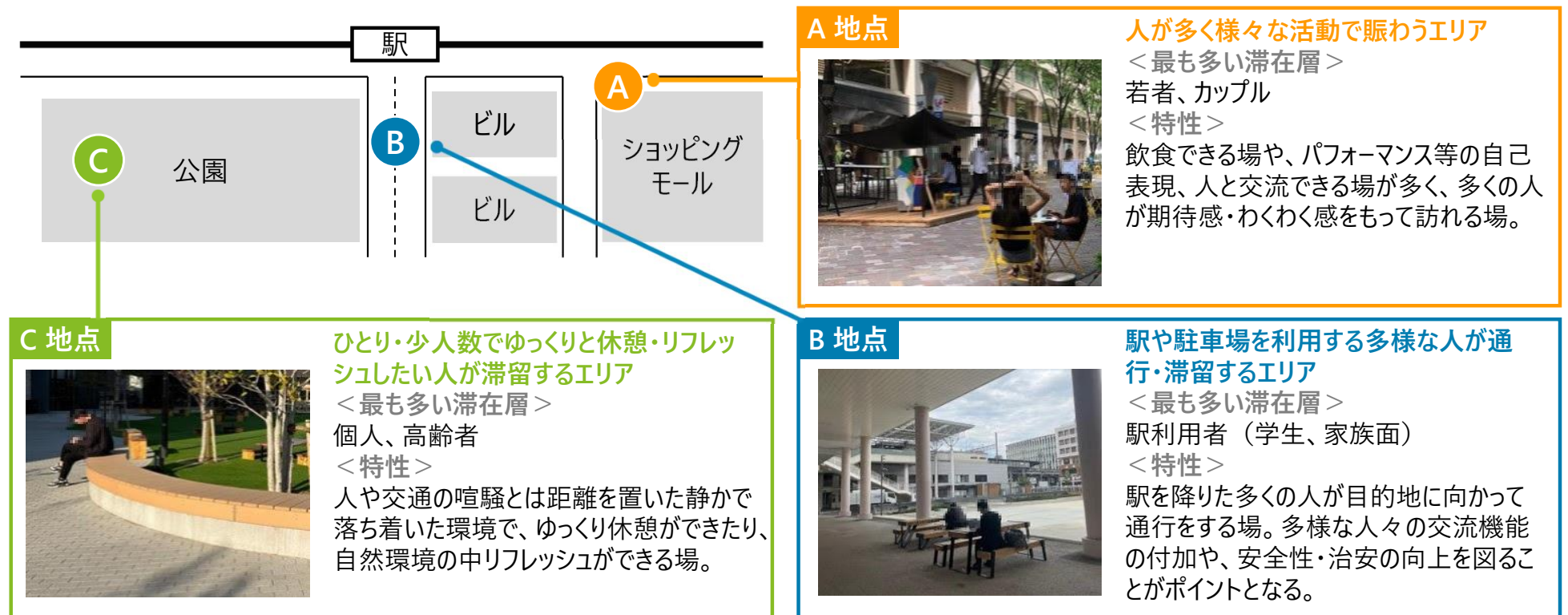
	1	2	3
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	はい	いいえ	不明

本項では、本指標を活用したまちの状態を分析の視点をいくつか例示します。

## (1) エリア内の地点間比較

場所が持つ意味、価値には様々なものがありますが、本指標は、**地点ごとの場所の特性を把握する**場合にも有効です。

同一都市内の複数の地点を計測する際に、各地点で全ての要素の**スコアが一様に良いことを必ずしも目指す必要はありません**。各地点がとがった魅力を持ち、一定の層の滞在者が集まるような場を形成することで、エリア全体として多様な人が集まり交流できる都市を形成することも考えられます。



エリア内で一様な取組を推進するのではなく、各地点の特性を踏まえ、**地点ごとの将来像・KPI等の検討**も可能です。  
**異なる特性を持つ多様な場が創出**され、結果として**多様な属性の人にとって居心地のよいエリア**が形成されます。

## (2) 各要素の結果に関する考え方

本指標を用いて計測を行い、「調査結果詳細シート③」にて、安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の評価を確認します。その際に、各要素のスコアが低かったり、さらなる向上を行いたい場合、各要素で下記のようなポイントに留意することで、各要素の改善が期待されます。取組のポイントはエリアの特性によって異なりますが、一般的なポイントとしてご参照ください。

### ■ 各要素を改善する際の視点

#### 安心感 を高めるためのポイント

安心感のスコアが低い場合には、滞在者・通行者にとって最低限必要な基準を満たしていない可能性があるため、「清潔性の担保」、「歩行者の安全確保」、「犯罪・災害からの安全性確保」のような原因を1つずつ解消していくといったアクションが必要  
キーワード:

清潔

安全

治安

#### 寛容性 を高めるためのポイント

寛容性のスコアが低い場合には、一部の人にとっては自由な活動が制限されたり、疎外感を感じる場となっている可能性があるため、「様々な属性（性別、年齢、国籍、グループ特性等）に とっての滞在のしやすさ」、「様々な活動が自由にでき、かつ他の活動を阻害しないような工夫」等を検討することが必要  
キーワード:

自由

多様性

解放感

#### 期待感 を高めるためのポイント

期待感のスコアが低い場合には、人を惹きつけるワクワク感・非日常性が不足している可能性があるため、「イベント・販売・パフォーマンス等ができる仕組み・空間の設え」、「非日常感・オリジナル感のある地域コンテンツの創出・活用」等を検討することが必要  
キーワード:

ワクワク感

非日常間

個性的

#### 安らぎ感 を高めるためのポイント

安らぎ感のスコアが低い場合には、滞在者がくつろげる空間や場の落ち着き等が不足している可能性があるため、「植栽の見直し」、「騒音等の解消による静かな空間の確保」、「開放感やゆとりのある空間の確保」等を検討することが必要  
キーワード:

リラックス感

静か

くつろぎ

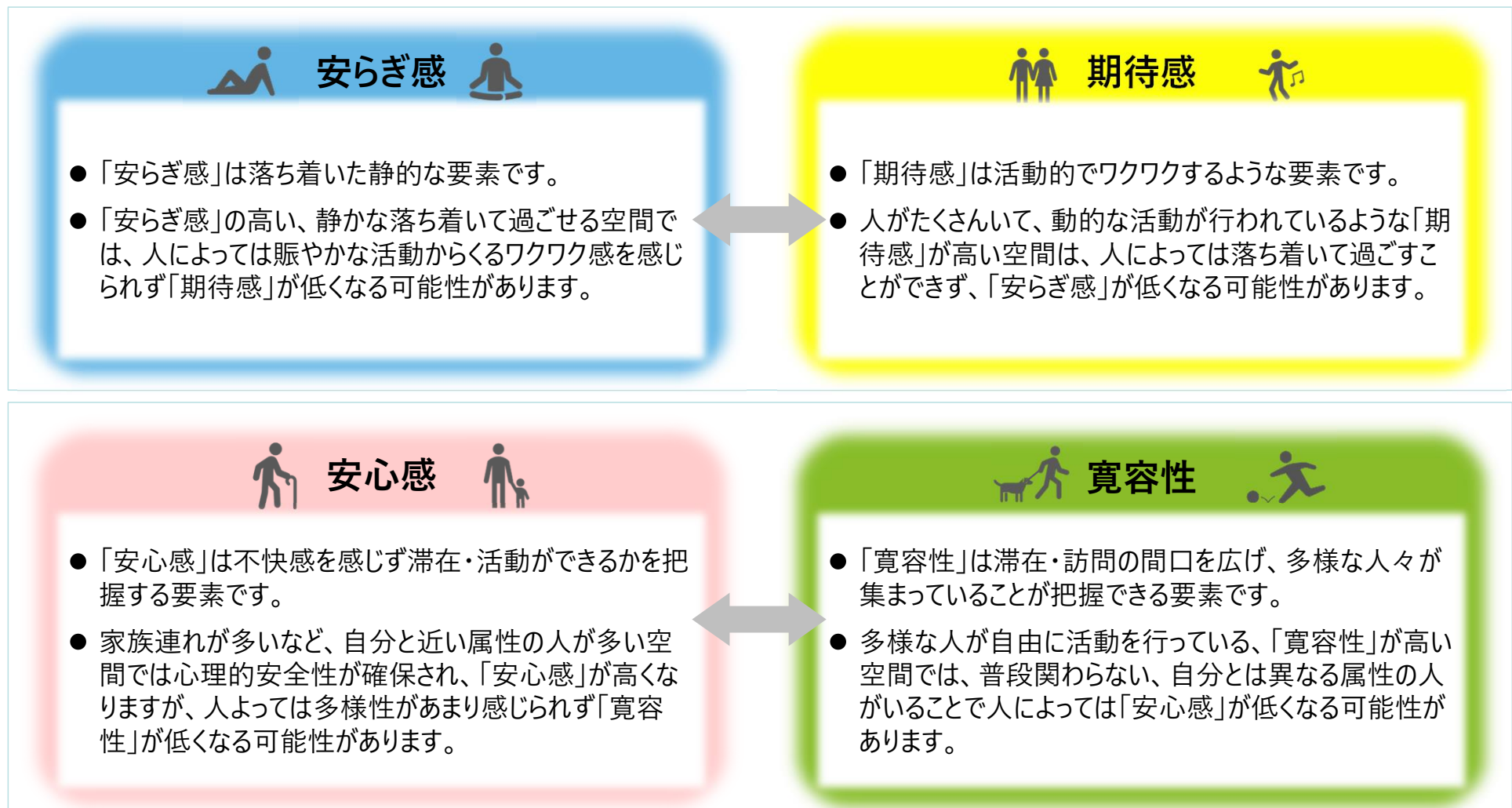
## (3) 各要素間の関係性

居心地の良さには様々な構成要素があり、各要素間では相反する概念や項目が含まれている場合があります。

例えば、下記のように、安らぎ感のスコアが高い空間では期待感のスコアが低くなるように、安らぎ感と期待感が相反するケースや、安心感のスコアが高い空間では寛容性のスコアが低くなるように、安心感と寛容性が相反するケースも見られます。

したがって、つくりたい空間はどちらを優先させるのか、または両者のバランスを取る必要があるのか関係者間で考えることが有効です。

### ■ 各要素間の相反性



## (4) 活動と主観項目の比較

アウトプットの居心地の良さの結果において、活動項目と主観項目のスコアに差がある場合、その場所の実態（活動）と印象（主観）に何らかのずれがあるため、その要因を考えることで対象地の課題を見つけ、その解決策の立案につながる場合があります。

活動項目と主観項目に差がある場合は「調査結果詳細シート②」で項目の横に「\*」が表記されます。

### ● 活動より主観のスコアの方が高い場合

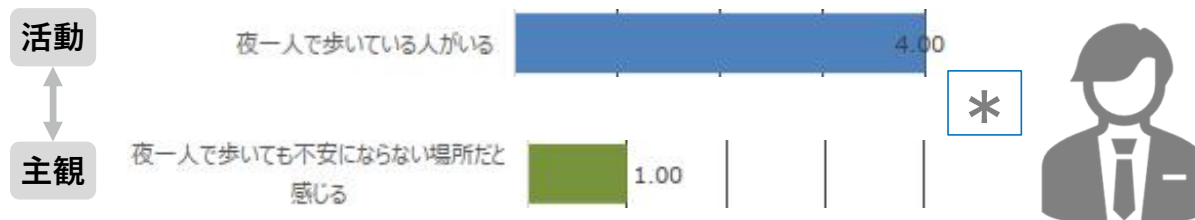
活動より主観のスコアの方が高い場合、居心地が良いと感じられる空間がであるものの、何らかの理由で活動が行われていないことを表します。  
例：「赤ちゃんを連れて来られる場所だと感じる」人が多いものの、実際に赤ちゃん連れの人が見られない。



赤ちゃんを連れてこられるような場が形成されているものの、活動が見られない。子育て世帯向けのPRやイベント、実証実験等で多くの人に来てもらえるような施策を実施しよう！

### ● 主観より活動のスコアの方が高い場合

主観よりも活動のスコアの方が高い場合、居心地が良いと感じられない空間であるものの、何らかの理由で活動が起きていることを表します。  
例：「夜一人で歩いても不安にならない場所」と感じる人は少ないものの、実際に歩いている人は多い。



周辺環境を確認したところ、そのストリートが主要な動線となっており、安全性の課題があるものの通行者が多かった。今後は対象地の安全性を高めるような取組を検討しよう！

活動項目と主観項目のスコアに差がある場合、その場所の実態（活動）と印象（主観）に何らかのずれがあるため、その要因を考えることで対象地の課題を見つけ、その解決策の立案につながる場合があります。

## (5) 特定の活動・主観に着目した経年比較

特定の活動や主観に着目し、項目の経年比較をすることで、居心地の良い空間を形成するために行った対策の効果等を把握できます。本指標の結果をもとに改善したい項目が発見された場合、それに対する対策を考え、対策後に再度計測を行うことでその効果を検証するツールとして活用できます。下記は一例ですが、対策の方法はハード整備に限らず、社会実験の実施、広報活動等様々あります。

### 1 回目調査

机や椅子が設置してあるものの、座って休憩したりくつろいでいる人がほとんどいなかった。

座って休憩したり、くつろいでいる人

がいる



可変性のある机・椅子やレジャーシート等の貸出を行った



### 2 回目調査

座って休憩したりくつろいでいる人が増えた。

座って休憩したり、くつろいでいる人

がいる



座れるベンチはあるものの、複数人で飲食する様子が見られなかった。

複数人で飲食をしている (ピクニックを含む)

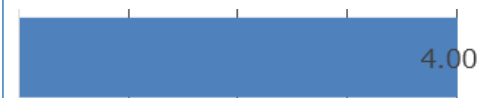


清掃活動を行い、キッチンカーを誘致する社会実験を行った



社会実験に伴い家族での来訪者が増加。キッチンカーで食べ物を購入しピクニックをしている様子が見られた。

複数人で飲食をしている (ピクニックを含む)



## (6) 滞在者属性に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート①・②(3章4. P38)にて、対象時間内に対象地にいる人を、滞在者・通行者に分け、その属性(グループ構成・性別・年代・国籍等)について、経緯を比較することができます。

滞在者・通行者数やその属性について分析するうえでのポイントを記載します。

### ■ 滞在者・通行者の割合について

本指標では、対象地に存在する人を、下記の定義で滞在者・通行者に分けて計測・可視化します。

居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出のため、全体の人々の量(合計値)が増えていくことが望ましいですが、中でも対象地に長い時間滞在する「滞在者」が増加をしているかという視点で、まちなかの状態を把握することが重要です。

#### 滞在者

その場で立ち止まり、何かしらの活動をした人

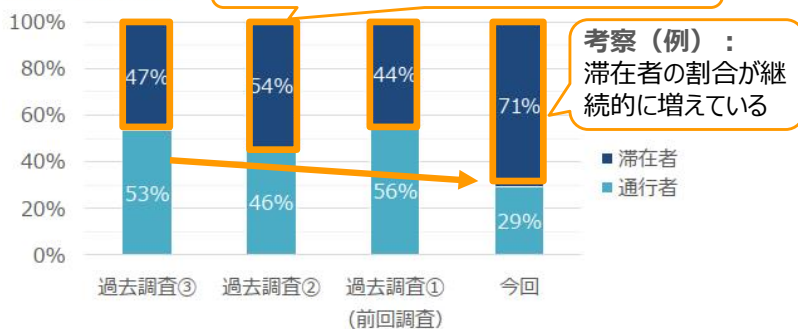
#### 通行者

滞在者以外の人

一般的に、まちなか空間では、平日に比べて休日の方がゆっくりと時間を過ごす「滞在者」が多くなる傾向にあります。

滞在者・通行者の割合は、平日・休日に分けて比較していく観点も重要です。

滞在者・通行者割合



参照: 3章2. (P19-20)

### ■ 滞在者・通行者の属性について

滞在者・通行者の属性については、グループ構成・性別・年代・国籍について、分布の割合を比較できます。

多くの人にとって居心地の良い、多様性のあるまちなかをつくっていくためには、偏りがなく、様々な属性が存在する姿を目指していくことが重要\*です。

また、存在する属性に偏りがなく、居心地の良さを4要素のうち、「寛容性」を高める要因になります。

※ただし、3章5. (P42) に記載した通り、特性の異なる地点を目指していく考え方もあるので、この限りではありません。

一般的には、特定の属性に偏りがなく、バランスがよいことが望まれます

#### グループ構成

一人

家族

家族以外の  
少人数グループ

団体

#### 性別

男性

女性

わからない

#### 年齢

乳幼児

小学生

中高生

大人

高齢者

#### 国籍

日本人

外国人

わからない

#### 行動

スタスタ歩いている

のんびり歩いている

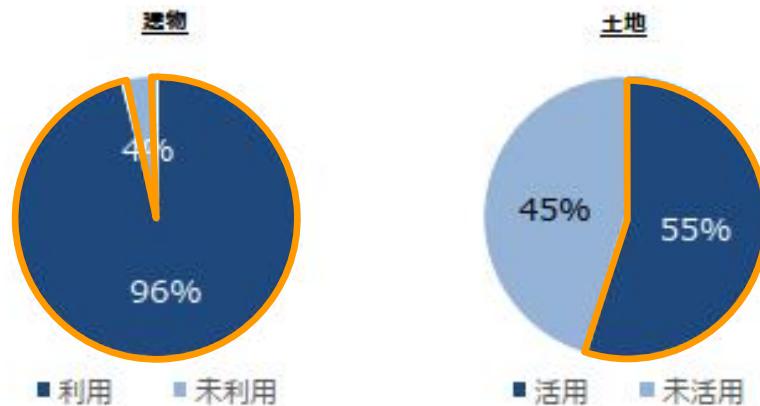


## (7) 沿道の建物・土地の状況に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート⑧（3章4. P40）にて、沿道の建物・土地の利用状況や可視性を確認できます。沿道の建物・土地の状況について考えるうえでのポイントを記載します。

### ■ 建物・土地の利用状況について

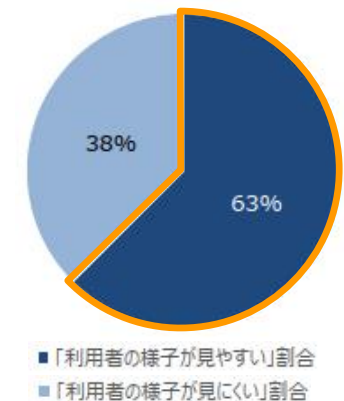
都市アセットが十分に活用され、まちなかに人が集まることで、まちなかの居心地の良さが向上すると考えられます。そのため、指標の1つとして、建物・土地の利用状況を定点的に確認し、「利用」されている割合を増やしていくことが重要です。



### ■ 建物の可視性について

居心地が良く歩きたくなるまちなかにおいて、建物低層部がまちに開かれていることが重要です。（1章1. P4のEye levelの観点を参照）

エリア内事業者との連携により、1階部分をガラス張りにする等、建物内の利用者の様子が見やすい割合を増やしていくことが重要です。



### ■ 屋外の滞留空間の有無について

さらに、エリア内の交流機能を高めるうえでは、建物と接する屋外空間に、オープンカフェがある、販売空間が外に出てきている等、屋外が滞留空間として活用されている状態が望ましいと考えられます。



### ■ 施設種について

本指標では、沿道の施設・店舗の種類について、飲食店・販売店・その他・未利用に分類し、数を把握できます。

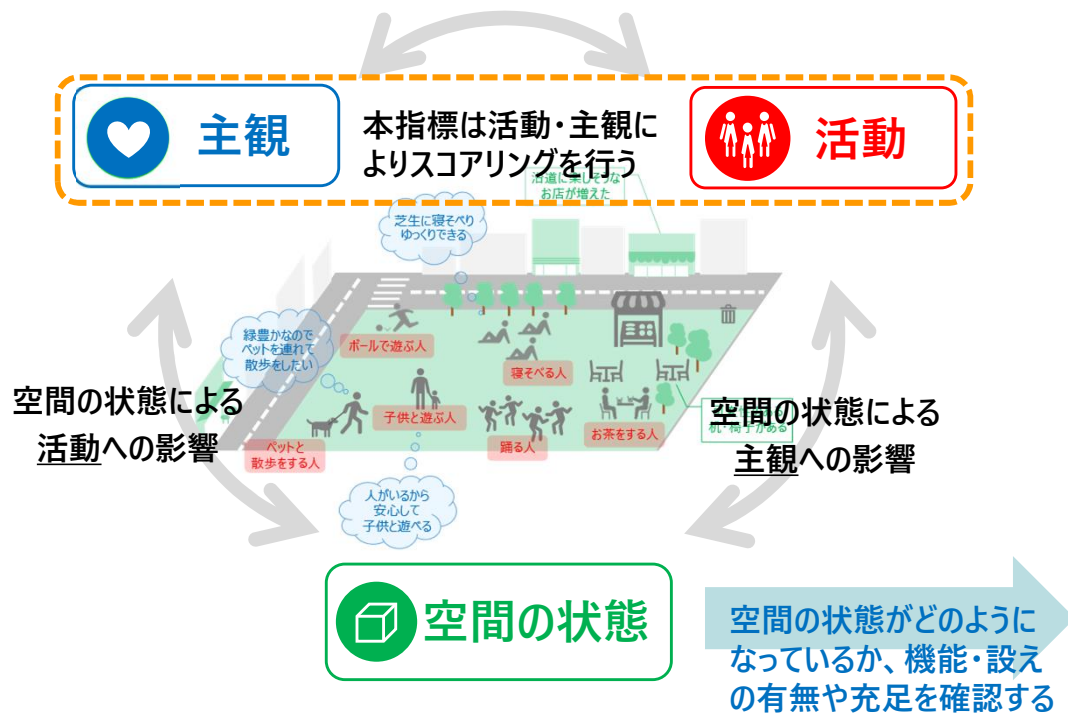
この数の増減についても、把握をすることで、まちなかの状態をより精緻に観測することができます。

## (8) 機能・設えの状況に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート⑨(3章4. P41)にて、対象地の機能・設えの状況を確認できます。機能・設えの状況について考えるうえでのポイントを記載します。

**<凡例>**  
 ✓ : はい  
 空白 : いいえ  
 - : 不明

「2章2. (P9)」に記載の通り、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出にあたって、「主観・活動・空間の状態」を把握することが重要です。本指標では「主観・活動」によるスコアリングを行います。また、「空間の状態」が、「主観」、「活動」を創出する大きな要因となります。「主観」、「活動」のスコア(まちなかの居心地の良さ)を向上させるために、「空間の状態」を定点的に把握することは、エリアで今後の対策を検討する上でのヒントとなります。



分類	#	項目	結果
滞在のしやすさ	1	飲食物を買うことができる設備・場所がある	
	2	給水・手洗いができる場所がある	✓
	3	雨天時・災害時に避難できる場所がある	-
	4	トイレが設けられている	-
	5	多目的トイレが整備されている	✓
	6	案内所・掲示板・デジタルサイネージ等がある	-
	7	外国語の案内板が整備されている	✓
	8	近くに交番・警察署がある	✓
	9	人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある	✓
	10	荷物を預けられる場所がある	-
	11	イスやテーブルなどの設備に可変性がある	✓
	12	座れる場がある	✓
	13	自由に使えるテーブルがある	✓
	14	ゴミ箱が設けられている	-
	15	子ども用の遊具がある	-
	16	人が踏み込んで良い芝生が設けられている	
	17	建物外設置物(椅子・販売物等)の設置可能範囲が明確にされている	✓
	18	夜間照明設備が整備されている	✓
	19	段差の無い導線が整備されている	✓
	20	車いす利用者やベビーカー利用者の通行を妨げる障害物がない	✓

## 参考資料

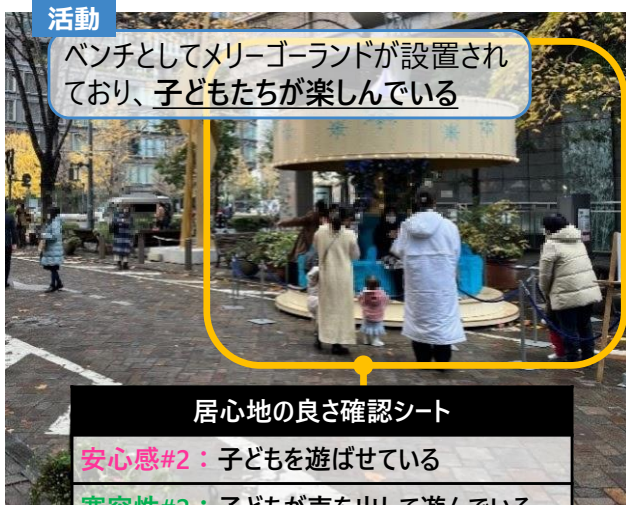
---

1. 計測イメージ
2. まちの状態の可視化に関連した文献・ツール等

居心地の良さ確認シートでは滞在者・通行者がどのように場を利用しているか（活動）、どのように感じられるか（主観）を確認します。以下に、実際に見られた活動から確認できる活動項目を例示しました。居心地の良さ確認シートの計測時の参考としてご活用ください。

## 居心地の良さ確認シート 1/4

**活動**  
ベンチとしてメリーゴーランドが設置されており、子どもたちが楽しんでいる



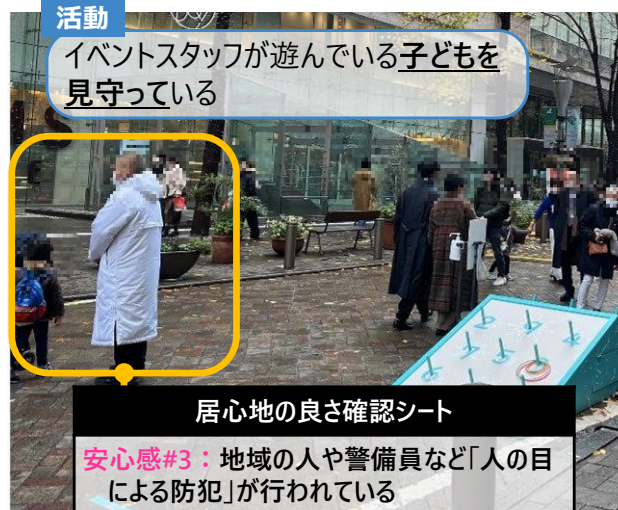
**居心地の良さ確認シート**

**安心感#2**：子どもを遊ばせている

**寛容性#2**：子どもが声を出して遊んでいる

**期待感#4**：何か人に人が群がっている

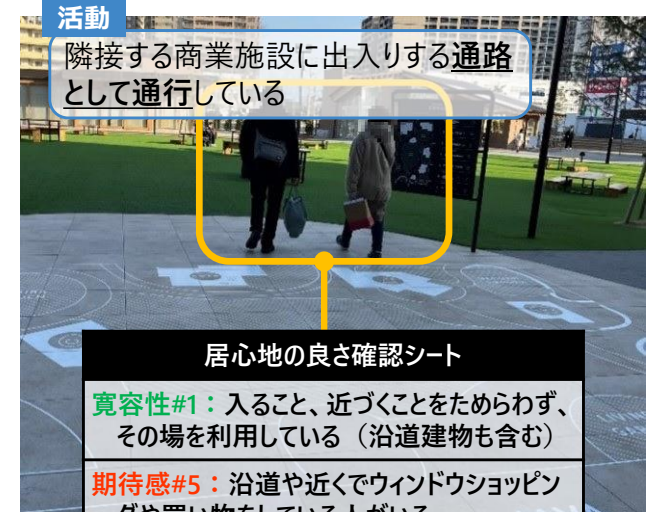
**活動**  
イベントスタッフが遊んでいる子どもを見守っている



**居心地の良さ確認シート**

**安心感#3**：地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている

**活動**  
隣接する商業施設に出入りする通路として通行している



**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#1**：入ること、近づくことをためらわず、その場を利用している（沿道建物も含む）

**期待感#5**：沿道や近くでウィンドウショッピングや買い物をしている人がいる

**活動**  
日向で座ってスマートフォンをいじっている



**居心地の良さ確認シート**

**安らぎ感#4**：読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる

**安らぎ感#7**：日光を楽しむ、日陰で過ごす人がいる

**活動**  
ペットを連れてきて、写真撮影をしている

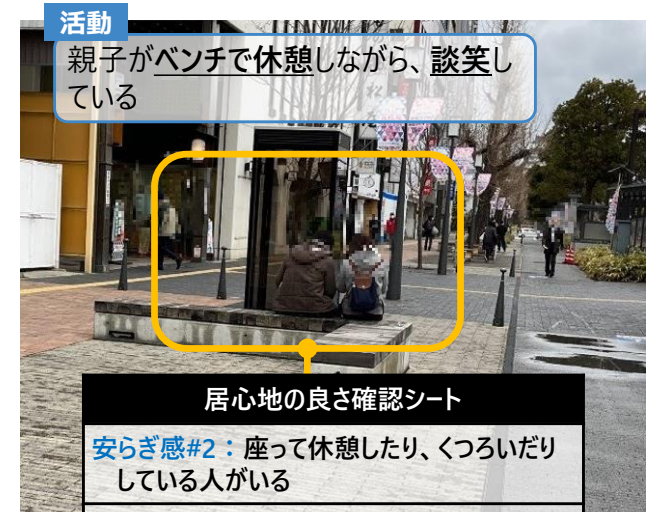


**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#5**：ペットを連れてきている人がいる

**期待感#8**：写真や動画を撮っている人がいる

**活動**  
親子がベンチで休憩しながら、談笑している



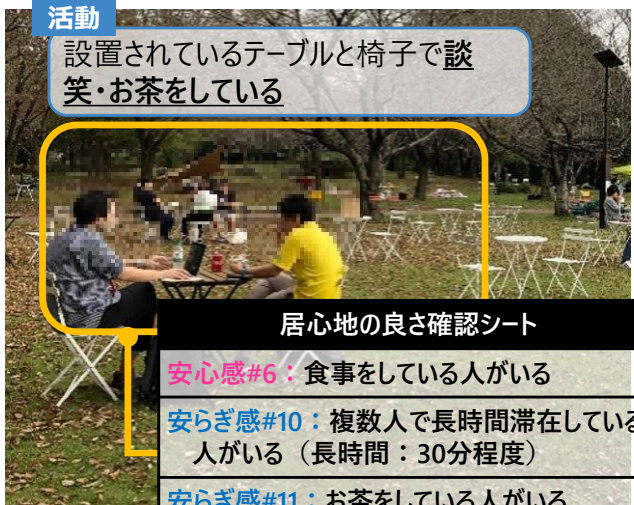
**居心地の良さ確認シート**

**安らぎ感#2**：座って休憩したり、くつろいだりしている人がいる

**期待感#1**：笑いながら話をしている人がいる

## 居心地の良さ確認シート 2/4

**活動**  
設置されているテーブルと椅子で談笑・お茶をしている



**居心地の良さ確認シート**

安心感#6： 食事をしている人がいる
安らぎ感#10： 複数人で長時間滞在している人がいる（長時間：30分程度）
安らぎ感#11： お茶をしている人がいる
期待感#2： 複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）

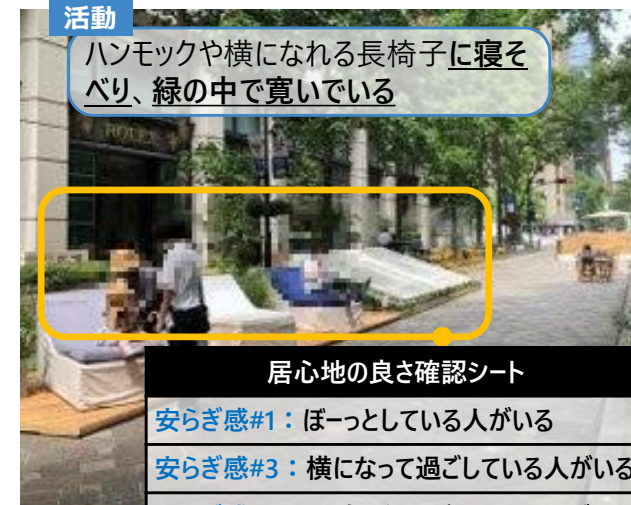
**活動**  
ピアノとステージが設置されており、ピアノを演奏している



**居心地の良さ確認シート**

期待感#6： パフォーマンスをしている人がいる
期待感#9： 音楽にのっている人がいる

**活動**  
ハンモックや横になれる長椅子に寝そべり、緑の中で寛いでいる



**居心地の良さ確認シート**

安らぎ感#1： ぼーっとしている人がいる
安らぎ感#3： 横になって過ごしている人がいる
安らぎ感#5： 花壇や緑などを眺める人がいる

**活動**  
数名でヨガ教室の体験を楽しんでいる



**居心地の良さ確認シート**

安らぎ感#12： ヨガや体操・ストレッチをしている人がいる
-------------------------------

**活動**  
大人数で広場でモルックをプレイしている



**居心地の良さ確認シート**

期待感#7： 子どもや大人が夢中になって遊んでいる
---------------------------

**活動**  
出展者がテントにて飲食物を販売しており、参加者が買い物をしている



**居心地の良さ確認シート**

安心感#6： 食事をしている人がいる
期待感#2： 複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）

## 居心地の良さ確認シート 3/4

**活動**  
路上でお絵描きを楽しむ子供を家族が見守っている



**居心地の良さ確認シート**

- 安心感#2：子どもを遊ばせている
- 寛容性#2：子どもが声を出して遊んでいる
- 寛容性・活動の種類#22：絵を描いている

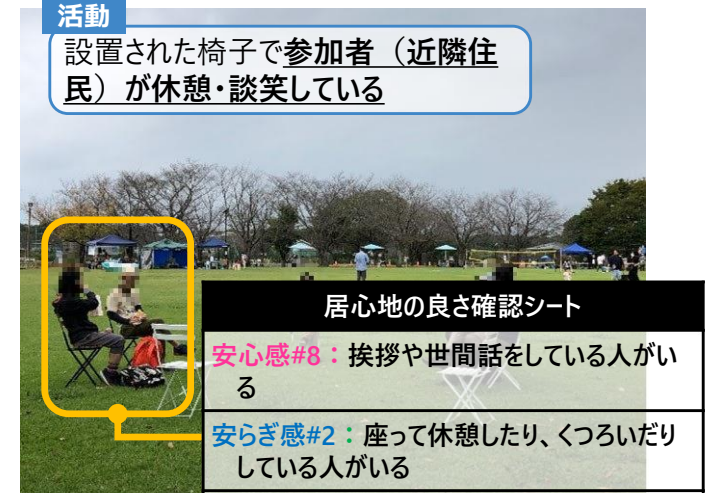
**活動**  
各々のペースで歩いている



**居心地の良さ確認シート**

- 安心感#7：人とぶつからない距離を保ち歩いている
- 安心感#9：車やバイクの往來を気にせず歩いている人がいる
- 寛容性#10：周囲より遅いペースで歩いている人がいる

**活動**  
設置された椅子で参加者（近隣住民）が休憩・談笑している



**居心地の良さ確認シート**

- 安心感#8：挨拶や世間話をしている人がいる
- 安らぎ感#2：座って休憩したり、くつろいでいる人がいる
- 安らぎ感#4：読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる

**活動**  
グループの趣味のスケートボードを楽しんでいる（3グループ利用）



**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#4：ダンス、楽器、スポーツなどの個々人の趣味の練習をしている人がいる

**活動**  
スーツや私服等、様々な服装の人がいる



**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#8：私服やスーツなど多様な服装の人がいる

**活動**  
ワーカーが出勤前にPC作業をしている

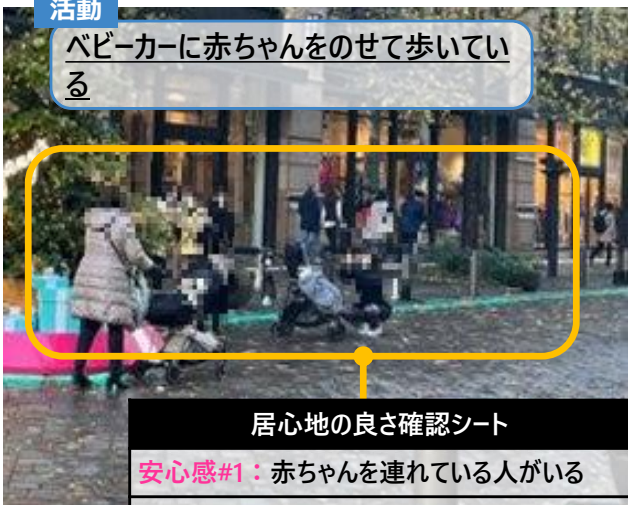


**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#9：パソコンやWeb会議で仕事をしている人がいる

## 居心地の良さ確認シート 4/4

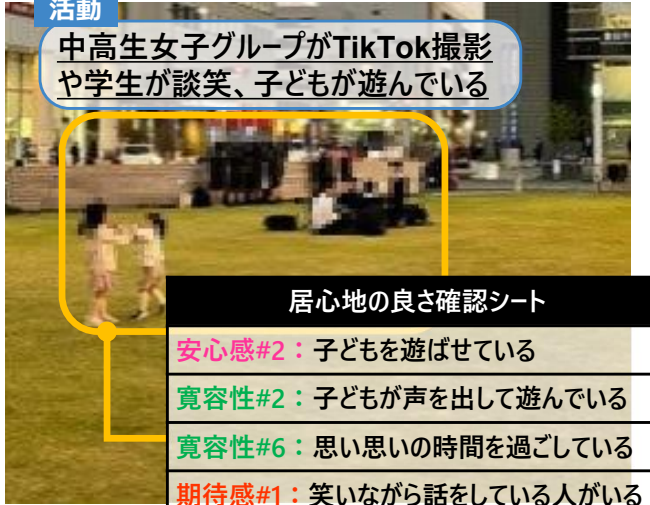
**活動**  
ベビーカーに赤ちゃんをのせて歩いている



**居心地の良さ確認シート**

- 安心感#1: 赤ちゃんを連れている人がいる
- 安心感#4: 足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が難なく移動・滞在している

**活動**  
中高生女子グループがTikTok撮影や学生が談笑、子どもが遊んでいる



**居心地の良さ確認シート**

- 安心感#2: 子どもを遊ばせている
- 寛容性#2: 子どもが声を出して遊んでいる
- 寛容性#6: 思い思いの時間を過ごしている
- 期待感#1: 笑いながら話している人がいる
- 期待感#8: 写真や動画を撮っている人がいる

**活動**  
ワーカーが疲れてうたた寝をしている



**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#3: うたた寝をしている人がいる

**活動**  
近隣住民のペットの散歩をしている



**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#5: ペットを連れている人がいる
- 安らぎ感#9: 散歩をしている人がいる

**活動**  
ウェディング撮影をしている



**居心地の良さ確認シート**

- 寛容性#6: 思い思いの時間を過ごしている
- 期待感#8: 写真や動画を撮っている人がいる

**活動**  
子どもたちがダンスを披露し、保護者・観客が写真を撮っている



**居心地の良さ確認シート**

- 期待感#4: 何かに人が群がっている
- 期待感#6: パフォーマンスをしている人がいる

空間の状態確認シートAでは、沿道建物（1階から見える地下の店舗や滞在空間を含む）や土地（スペース）の状況について確認します。以下に、実際に見られた沿道建物や土地の状況を例示しました。空間の状態確認シートAの参考としてご活用ください。

## 空間の状態確認シートA（沿道建物・土地状況）



空間の状態確認シートA

建物：利用：飲食店：利用者の様子が見やすい：屋外の滞留空間あり（テラス席等）



空間の状態確認シートA

建物：利用：その他：利用者の様子が見にくい



空間の状態確認シートA

建物：利用：販売店：利用者の様子が見やすい：屋外の滞留空間なし



空間の状態確認シートA

土地：活用：キッチンカーなどイベントを実施



空間の状態確認シートA

土地：活用：実施なし



出所：都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ

空間の状態確認シートA

土地：未利用



空間の状態確認シートBでは、対象地にある機能や設えの整備状況等について確認します。  
 以下に、実際に見られた機能や設えを例示しました。空間の状態確認シートBの参考としてご活用ください。

## 空間の状態確認シートB（機能・設え状況） 1/2

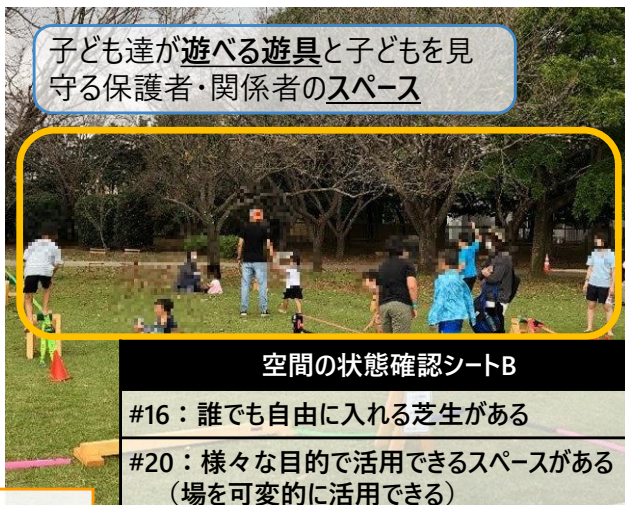


広場利用ルールの案内サイン

空間の状態確認シートB

#6：案内所・案内板・デジタルサイネージ等がある

十分・不足の判定例：  
 休日の人が多い時間帯にも滞在者が不自由なく利用できる量・率の機能が存在する



子ども達が遊べる遊具と子どもを見守る保護者・関係者のスペース

空間の状態確認シートB

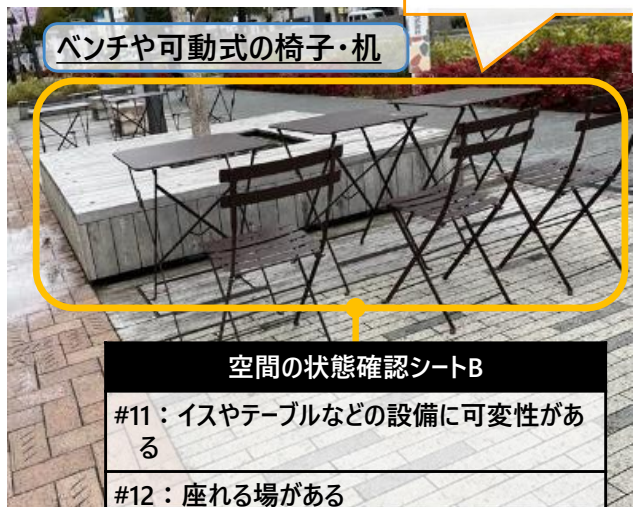
- #16：誰でも自由に入れる芝生がある
- #20：様々な目的で活用できるスペースがある（場を可変的に活用できる）
- #21：体操や運動ができるスペースがある
- #22：イベントを開催できるスペースがある



子供たちが楽しめる輪投げ

空間の状態確認シートB

- #15：子ども用の遊具がある
- #22：イベントを開催できるスペースがある



ベンチや可動式の椅子・机

空間の状態確認シートB

- #11：イスやテーブルなどの設備に可変性がある
- #12：座れる場がある
- #13：自由に使えるテーブルがある



広場中央に水の流れが設けられている

空間の状態確認シートB

#37：親水空間がある



点字ブロックが整備されている

空間の状態確認シートB

#24：点字ブロックや音の鳴る信号がある

## 空間の状態確認シートB（機能・設え状況） 2/2



空間の状態確認シートB

#29：自転車レーンと歩道が分かれている



空間の状態確認シートB

#28：車道と歩道が分かれている



空間の状態確認シートB

#32：アート・展示空間がある



空間の状態確認シートB

#34：管理の行き届いた植栽（植木・花壇等）がある



空間の状態確認シートB

#40：近くに駐輪場がある

## ■ 主な文献

#	文献名	著者・発行団体	概要
1	ストリートデザインガイドライン	国土交通省	ストリートデザインのポイントとなる考え方を、様々な例示とともに示している。
2	Cities for People	Jan Gehl	外でのアクティビティを、必要 (Necessary)、任意的 (Optional)、社会的 (Social) の3つに分類し評価している。
3	人間中心視点による公共空間のアクティビティ評価手法に関する研究	泉山 壘威ら	アクティビティ調査を行う事で客観的な観察による質的データの収集が可能になり、その重要性を提唱している。
4	ストリートデザイン・マネジメント:公共空間を活用する制度・組織・プロセス	出口 敦ら	公共空間を活用するための精度や素子区・プロセスについて多数の事例から解説している。
5	防犯的な視点から見たプレイスメイキング概念に関する考察	三友 奈々、渡 和由	調査を通して、公共空間における防犯と居心地の良さの両立を目的とした、公共空間に必要な具体的な場のコンポーネントを提示した。

## ■ 主なツール

#	文献名	著者・発行団体	概要
1	Sensuous City[官能都市]	LIFULL HOME'S総研	「都市における官能的な体験の実際をつかむ」ことを目的に、関係性と身体性という視点から都市の実相を可視化する調査。
2	Walkability Index	日建設計総合研究所	暮らしやすさの観点から徒歩圏内の施設充実度を定量的に評価する指標。
3	Liveable Well-Being City	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート	政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、地域におけるWell-Beingを計測する指標として活用される指標。
4	Project for Public Space、The Place Diagram	NPO、「What is Placemaking」	公共スペースにおける4つの要素 (用途・活動、居心地の良い・イメージ、アクセス・つながり、社交性) から、魅力的で活気のある公共スペースを作るためのフレームワーク。
5	プレイス・ゲームガイド	UR都市機構	プレイスメイキングのプロセスの1つである対象とする公共空間を統一した視点から評価し、課題を特定する「プレイス・ゲーム」のガイドブック。
6	Pedestrians First	国際交通開発政策研究所 (ITDP)	歩行者の安全性と利便性を最優先に考えた都市環境の整備を促進することを目的としたプログラム。
7	Walk Score	Redfin	物件周辺にある店舗や施設、公園や緑地、公共交通機関などへのアクセスのしやすさを総合的に評価する、物件の歩行利便性を評価する指標。

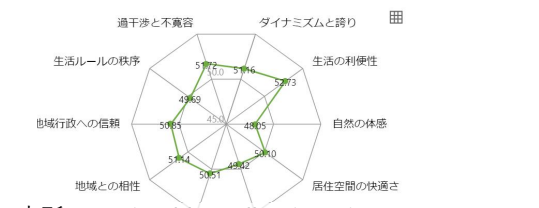
ツールの  
アウトプット  
イメージ  
(例)

センシユアシティ ランキング	センシユアスコア (総合順位)	共同体験 機能 している	匿名性 がある	ロマンが ある	機会が ある	異文化 がある	街を 楽しむ	自然を 楽しむ	歩ける
1 東京都	608.0	93.1	78.2	83.9	79.8	62.9	68.6	56.4	86.1
2 大阪市北区	566.5	75.9	72.8	85.7	82.9	64.9	78.6	47.3	53.3
3 武蔵野市	550.4	63.5	63.1	76.8	65.5	64.9	81.2	66.6	68.7
4 目黒区	548.6	68.9	69.8	79.3	62.9	63.9	79.0	57.5	67.4
5 大阪市西区	530.1	62.1	80.3	65.8	75.6	61.6	72.3	59.1	53.2
6 目黒区	525.9	78.1	72.9	69.2	78.1	55.6	76.3	43.8	52.4
7 大阪市中央区	525.4	62.6	79.7	76.7	73.1	60.7	67.1	42.4	62.8
8 金沢市	515.0	65.9	61.7	65.6	73.0	77.3	53.2	60.4	58.0
9 品川区	508.7	68.4	70.3	59.4	60.5	56.8	72.4	53.8	67.2
10 港区	488.6	53.9	77.3	75.3	69.3	63.9	61.3	43.9	43.9
11 千代田区	485.6	73.9	78.1	62.9	73.2	61.6	56.9	35.0	43.1
12 静岡市	483.2	11.4							
13 横浜市保土ヶ谷区	479.8								

出所：#1 Sensuous City、LIFULL HOME'S総研



出所：#2 Walkability Index、日建設計総合研究所



出所：#3 Liveable Well-Being City、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

**本指標に関する問い合わせ先**

国土交通省 都市局 まちづくり推進課  
〒100-8918  
東京都千代田区霞が関2-1-3  
TEL： 03-5253-8111